

協議事項（１） アンケート調査結果（概要）について

1. 市民アンケート調査

（１）調査の概要

① 調査目的

- ・ 現行計画策定時からの、市民の交通行動や公共交通に対する評価、公共交通のあり方に関する意向の変化を把握すること

② 調査対象

- ・ 黒部市に居住する 15 歳以上の市民のうち、年代別で無作為に抽出した 2,000 名

③ 調査方法

- ・ 郵送による調査票の発送・回収（留置方式）

④ 調査日程

- ・ 調査票の発送：2019 年 9 月 18 日（水）
- ・ 調査票の回収：2019 年 10 月 2 日（水）

⑤ 配布・回収状況

- ・ 本調査では、2,000 通の配布に対し 855 通の回答があり、回収率は、42.8％

配布数	2,000 通
回収数	855 通
回収率	42.8％

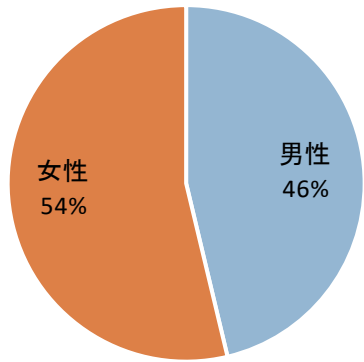
※ 以下では、有効回答数を基に集計

（２）調査結果(概要)

① 属性

○ 性別

回答者の約 46％が「男性」、約 54％が「女性」となっている。

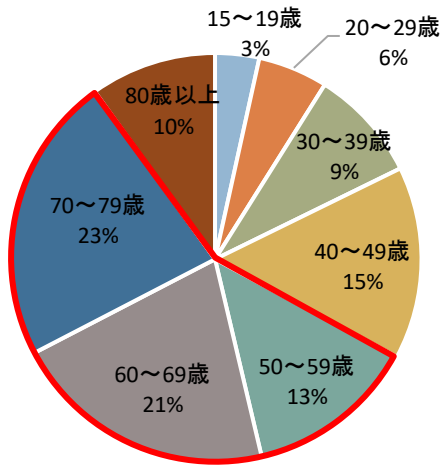


	回答数	比率
男性	385	46%
女性	447	54%
合計	832	100%

■ 男性 ■ 女性

○ 年齢

「70 歳代」が 22.7％と最も多く、次いで「60 歳代」、「50 歳代」等と続く。これら、50 歳代から 70 歳代で全体の約 57％を占める。

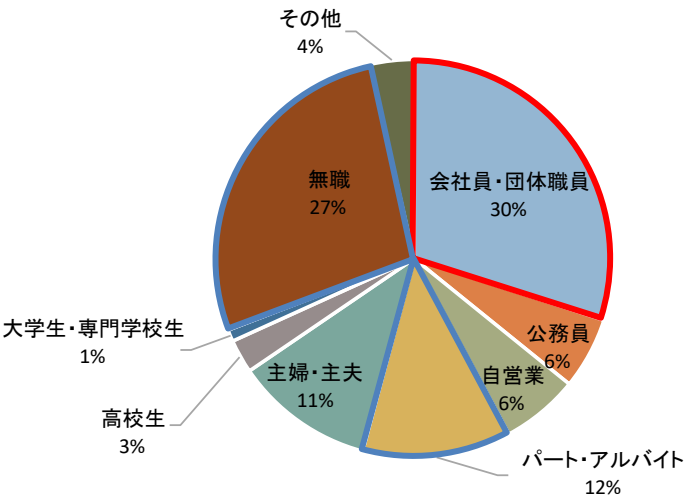


	回答数	比率
15～19歳	29	3.5%
20～29歳	46	5.5%
30～39歳	74	8.8%
40～49歳	127	15.1%
50～59歳	113	13.5%
60～69歳	177	21.1%
70～79歳	191	22.7%
80歳以上	83	9.9%
合計	840	100.0%

50 歳代から 70 歳代 57.3%

○ 職業

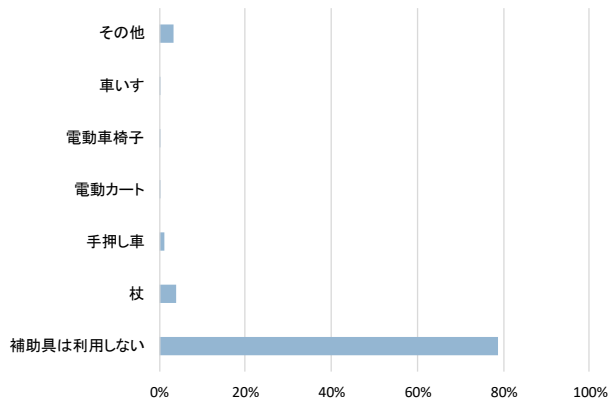
「会社員・団体職員」が30.0%と最も多く、「無職」、「パート・アルバイト」等と続く。



	回答数	比率
会社員・団体職員	252	30.0%
公務員	49	5.8%
自営業	53	6.3%
パート・アルバイト	101	12.0%
主婦・主夫	95	11.3%
高校生	23	2.7%
大学生・専門学校生	8	1.0%
無職	229	27.3%
その他	30	3.6%
合計	840	100.0%

○ 外出時の補助具利用状況

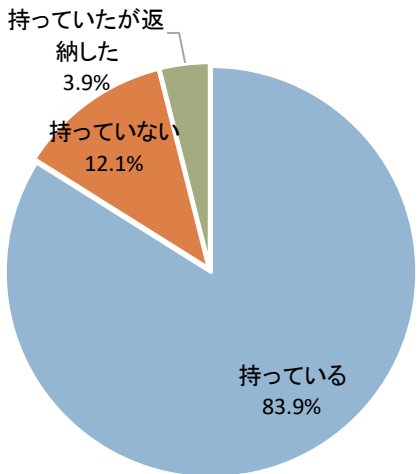
補助器具を利用しない回答者が大多数を占める。



	回答数	比率
補助具は利用しない	681	90.0%
杖	35	4.6%
手押し車	9	1.2%
電動カート	1	0.1%
電動車椅子	1	0.1%
車いす	2	0.3%
その他	28	3.7%

○ 運転免許の所有状況

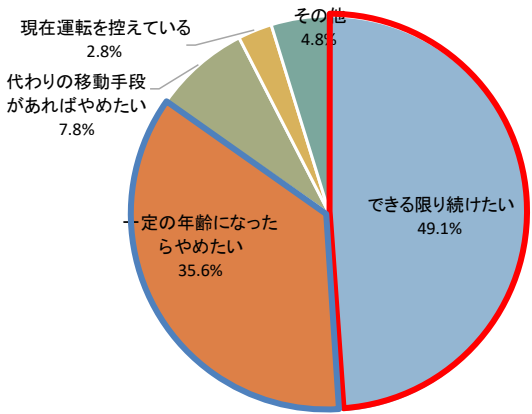
運転免許所有者が大多数を占める。なお、免許返納者は3.9%となっている。



	回答数	比率
持っている	705	83.9%
持っていない	102	12.1%
持っていたが返納した	33	3.9%
合計	840	100.0%

○ 運転継続意向

「できる限り続けたい」の回答者が最も多く、49.1%を占める。また、4割超の回答者が、将来的な運転の取りやめを志向している（「一定の年齢になったらやめたい」、「代わりの移動手段があればやめたい」）。

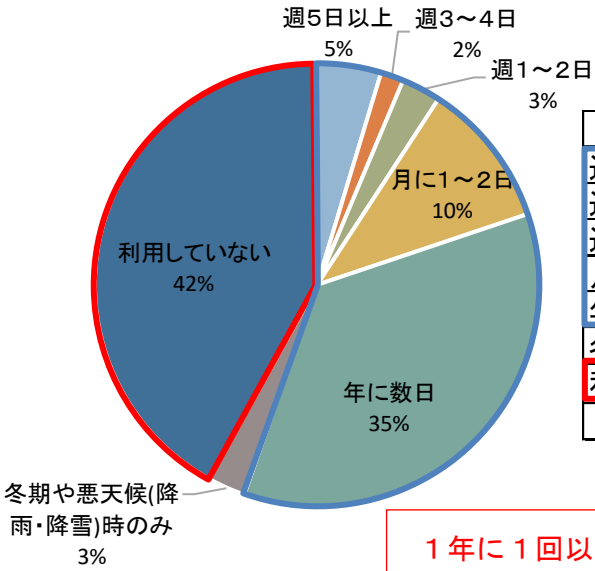


	回答数	比率
できる限り続けたい	371	49.1%
一定の年齢になったらやめたい	269	35.6%
代わりの移動手段があればやめたい	59	7.8%
現在運転を控えている	21	2.8%
その他	36	4.8%
合計	756	100.0%

○ 公共交通の利用頻度

公共交通を「利用していない」回答者が41.9%と最も多い。週に1回以上公共交通を利用する回答者は、全体の1割未満に留まる。

特に、第1次計画の目標指標4に位置づけられている「1年に1回以上公共交通を利用する市民の割合」は、目標値である80.0%を下回る58.1%となった。



	回答数	比率
週5日以上	39	4.7%
週3～4日	14	1.7%
週1～2日	24	2.9%
月に1～2日	89	10.6%
年に数日	297	35.5%
冬期や悪天候(降雨・降雪)時のみ	23	2.7%
利用していない	351	41.9%
合計	837	100.0%

1年に1回以上公共交通を利用 58.1%

② 外出行動の状況

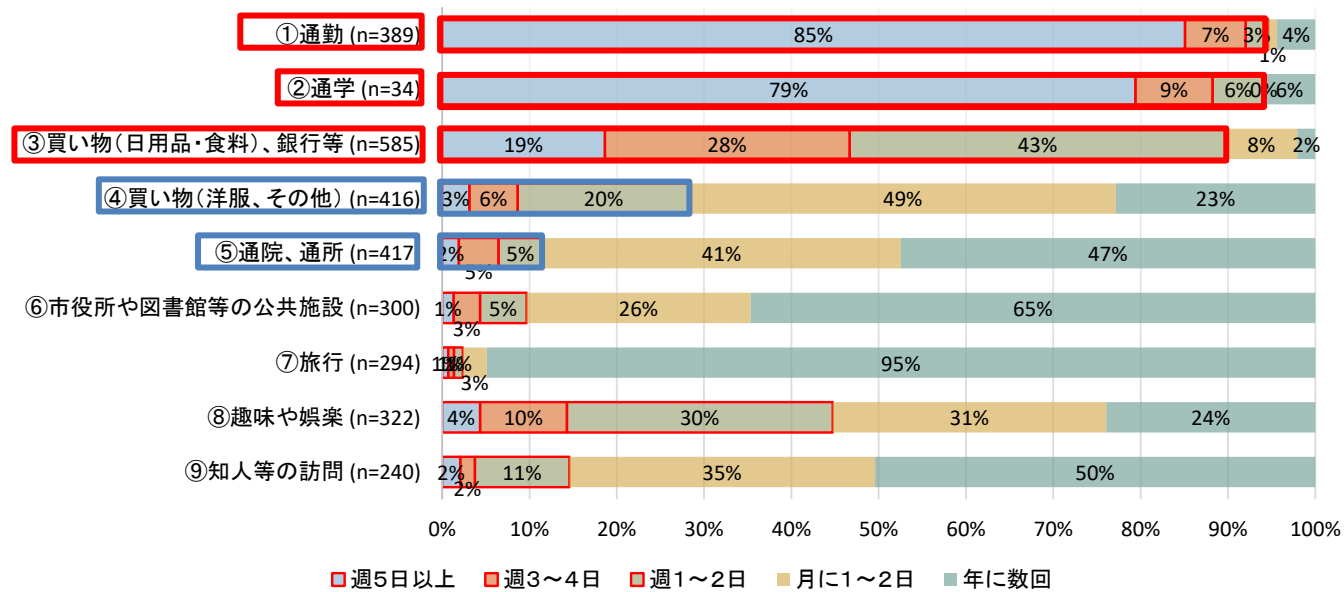
②-1 外出目的ごとの外出状況

○ 外出目的ごとの外出頻度

外出目的の回答数が最も多いのは「買い物（日用品・食料）、銀行等」で、「通院、通所」、「買い物（洋服、その他）」等と続く。

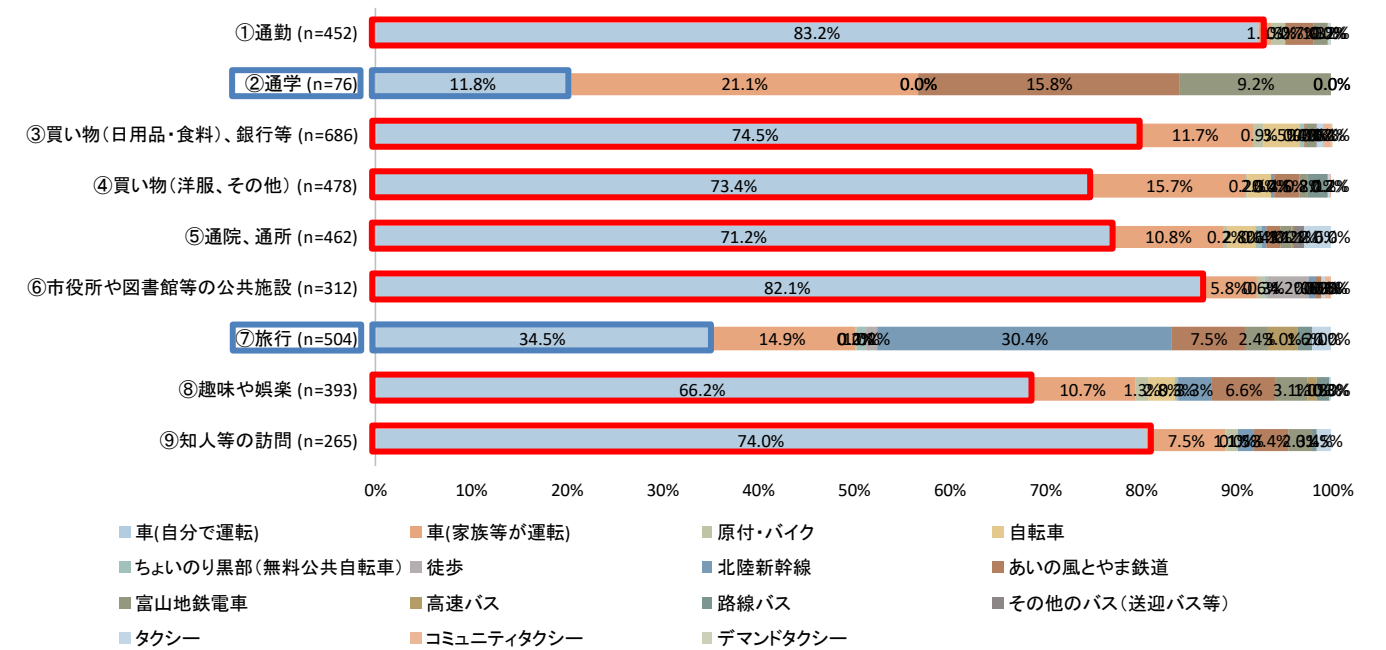
外出目的ごとの外出頻度を整理すると、他の外出目的に比べ「通勤」や「通学」の頻度が著しく高い。

外出目的が最も多い「買い物（日用品・食料）、銀行等」では、週に1回以上でほとんどを占める。一方、比較的外出目的が多かった「通院、通所」や「買い物（洋服、その他）」では、週に1回以上の外出頻度は、概ね3割以下に留まる。



○ 外出目的ごとの交通手段

全般的に「車（自分の運転）」がほとんどを占める中で、「②通学」や「⑦旅行」で公共交通を利用する割合が高い。

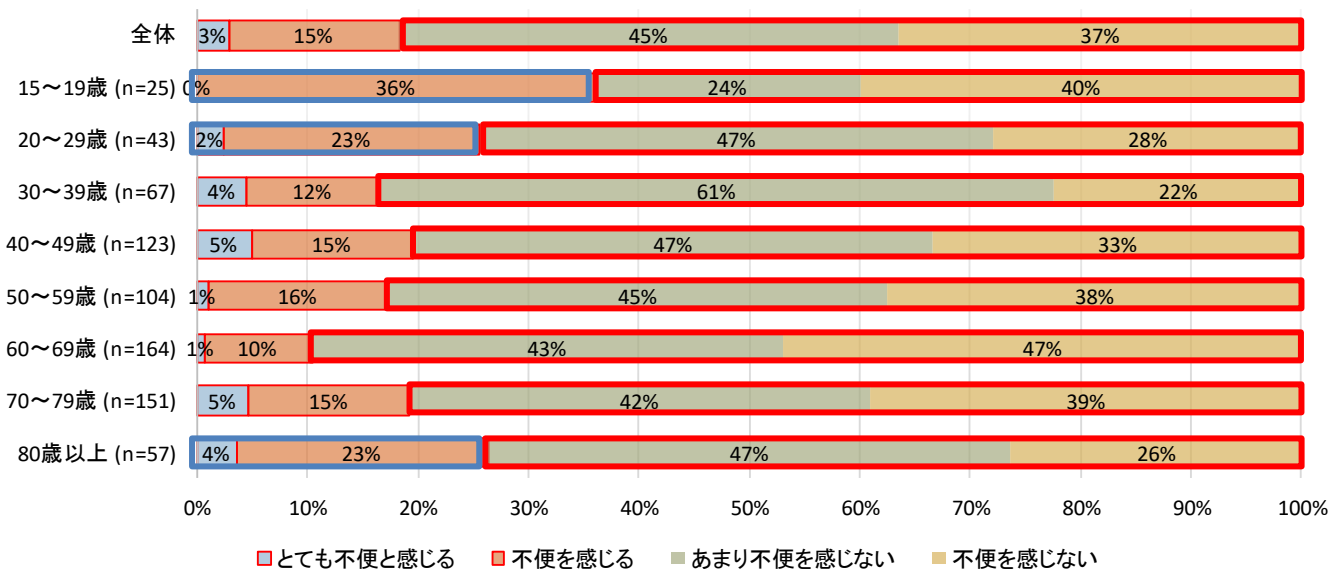


②-2 日常のおでかけの不便さに関する意識

○ 年齢とのクロス集計

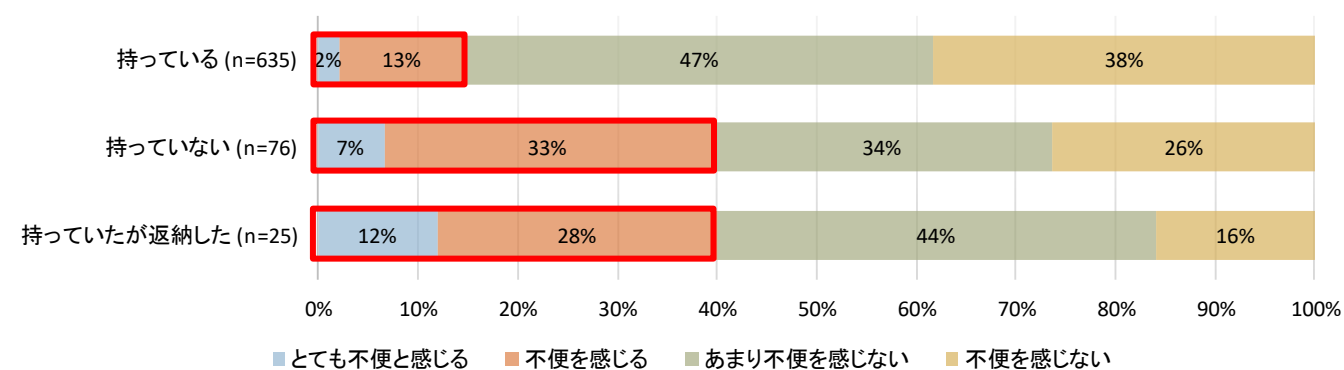
全体では、「不便を感じない系（「あまり不便を感じない」と「不便を感じない」）」がほとんどを占める。

各年代とも、「不便を感じない系」が過半を占めるが、「15～19歳」や「20歳代」の若年層や「80歳以上」の高齢層で、「不便系（「とても不便と感じる」と「不便を感じる」）」の割合が高い傾向がある。



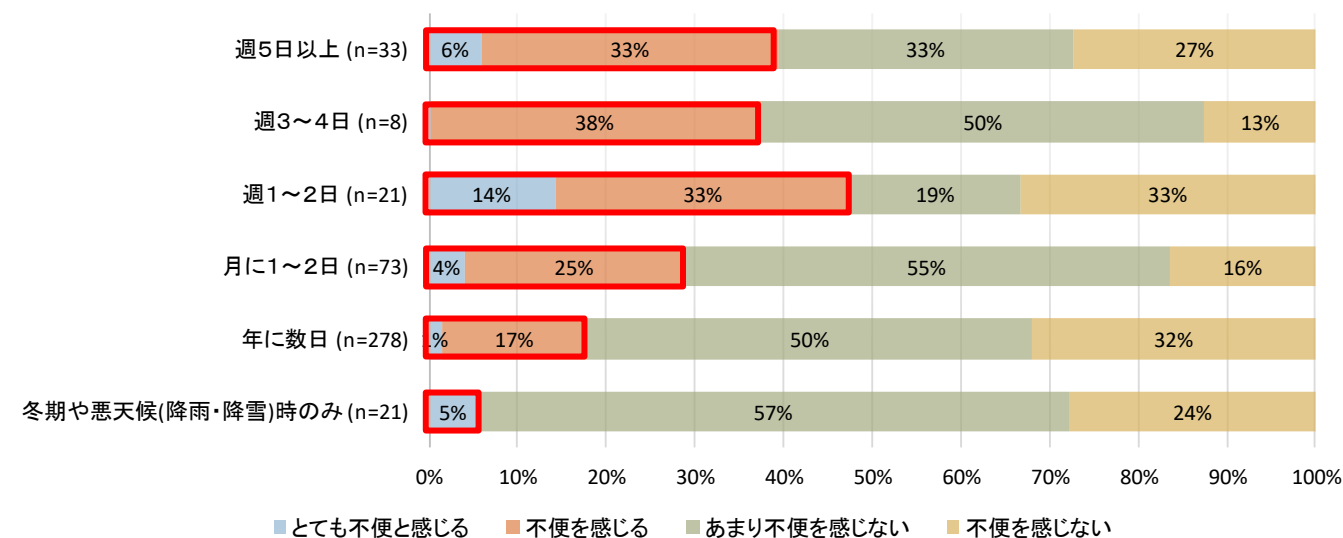
○ 免許所有状況とのクロス集計

運転免許所有者に比べ、運転免許返納者を含む運転免許非所有者で「不便系」の割合が高い傾向がある。



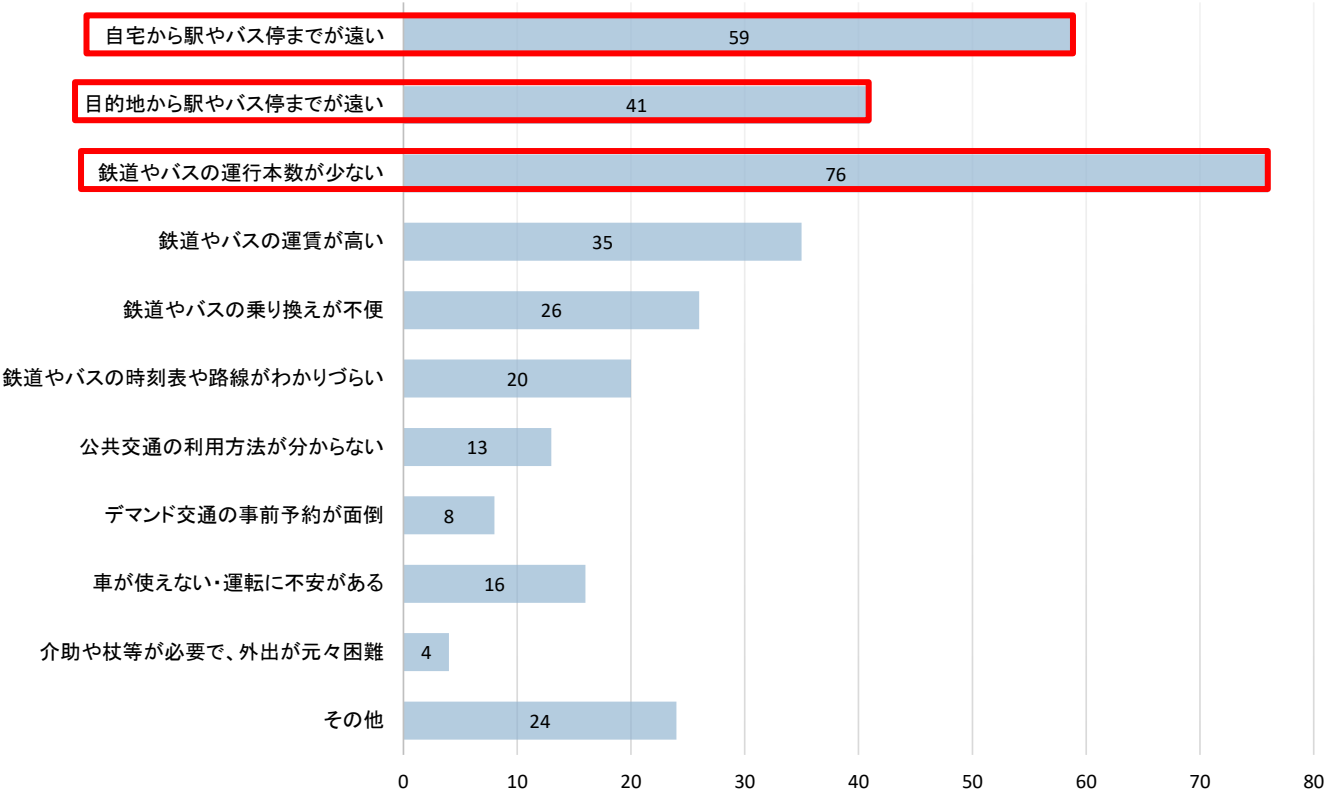
○ 公共交通の利用頻度とのクロス集計

「不便系」の割合が最も高いのは「週1～2日」であるが、全体的に、公共交通を利用する頻度が高い人ほど普段の外出に不便を感じる傾向がある。



②-3 外出に不便を感じる理由

外出に不便を感じる理由は、「鉄道やバスの運行本数が少ない」が最も多く、「自宅から駅やバス停までが遠い」、「目的地から駅やバス停までが遠い」等が続く。

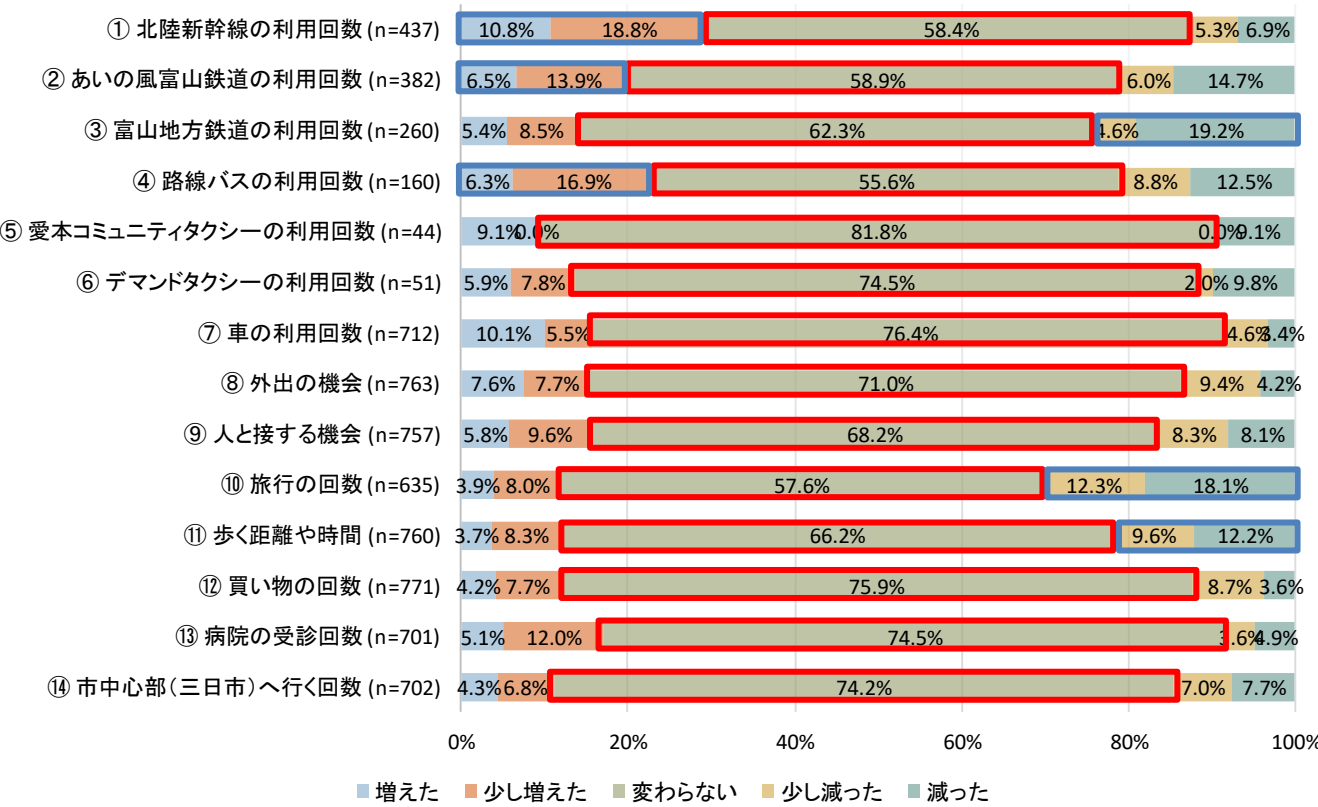


②-4 1年間の行動の変化

全ての項目で、「変わらない」が過半を占める。

また、「増加系（「増えた」と「少し増えた」）」が最も多いのは「北陸新幹線」で、「路線バス」、「あいの風とやま鉄道」等と続く。

一方、「減少系（「減った」と「少し減った」）」が最も多いのは「旅行」で、「富山地方鉄道」、「歩く距離や時間」等と続く。



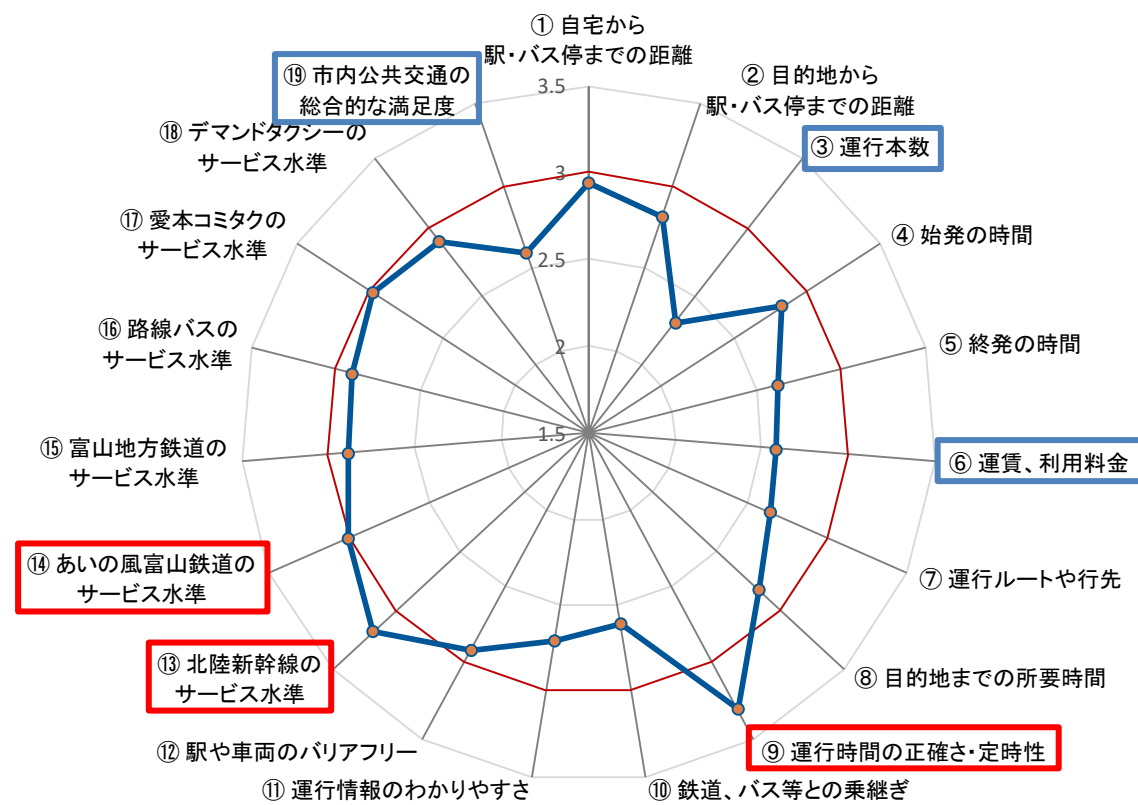
③ 黒部市内の公共交通に関する評価等

③-1 黒部市の公共交通の満足度

満足度が中央値を超える項目は「⑨運行時間の正確さ・定時性」を筆頭に、「⑬北陸新幹線のサービス水準」、「⑭あいの風富山鉄道のサービス水準」である。

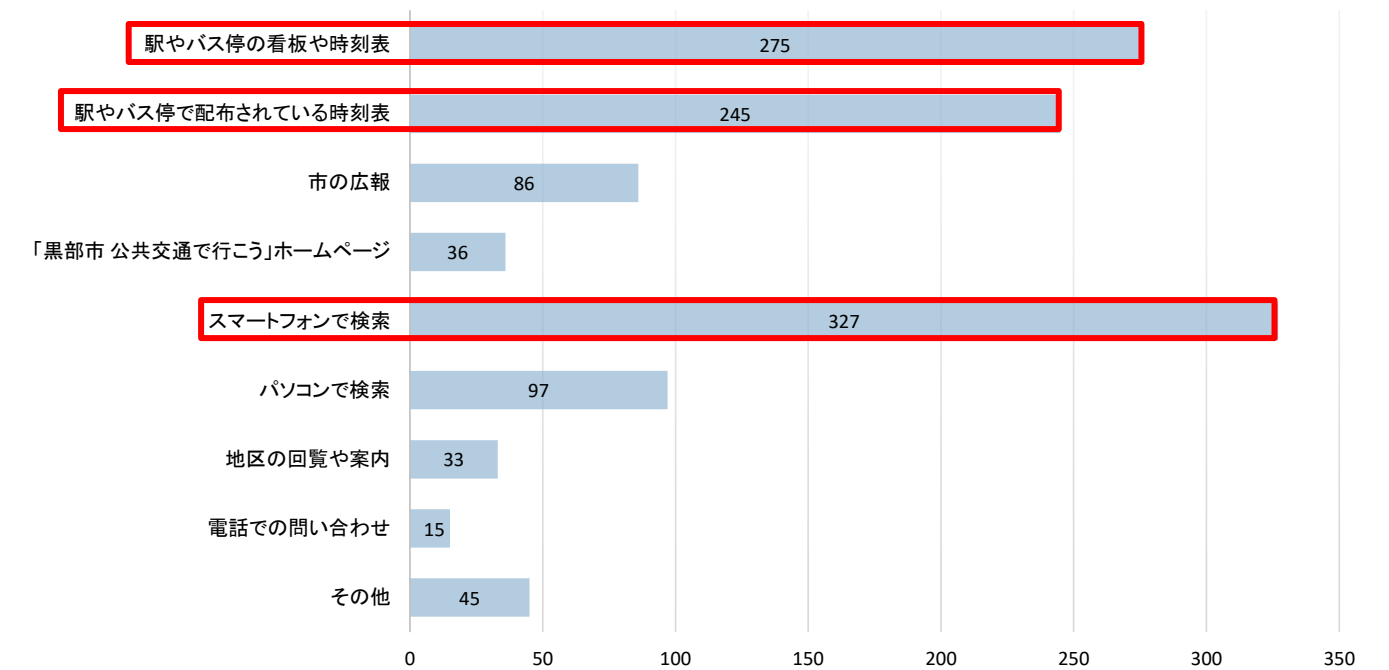
一方、「③運行本数」や「⑥運賃、利用料金」、「⑯市内公共交通の総合的な満足度」で、著しく評価が低い結果となった。

特に、第1次計画の目標指標5に位置づけられている「⑯市内公共交通の総合的な満足度」は、目標値である3.50ポイントを下回る2.59ポイントとなった。



③-2 公共交通に関する情報の取得方法

「スマートフォンで検索」が最も多く、「駅やバス停で配布されている時刻表」、「駅やバス停で配布されている時刻表」等が続く。

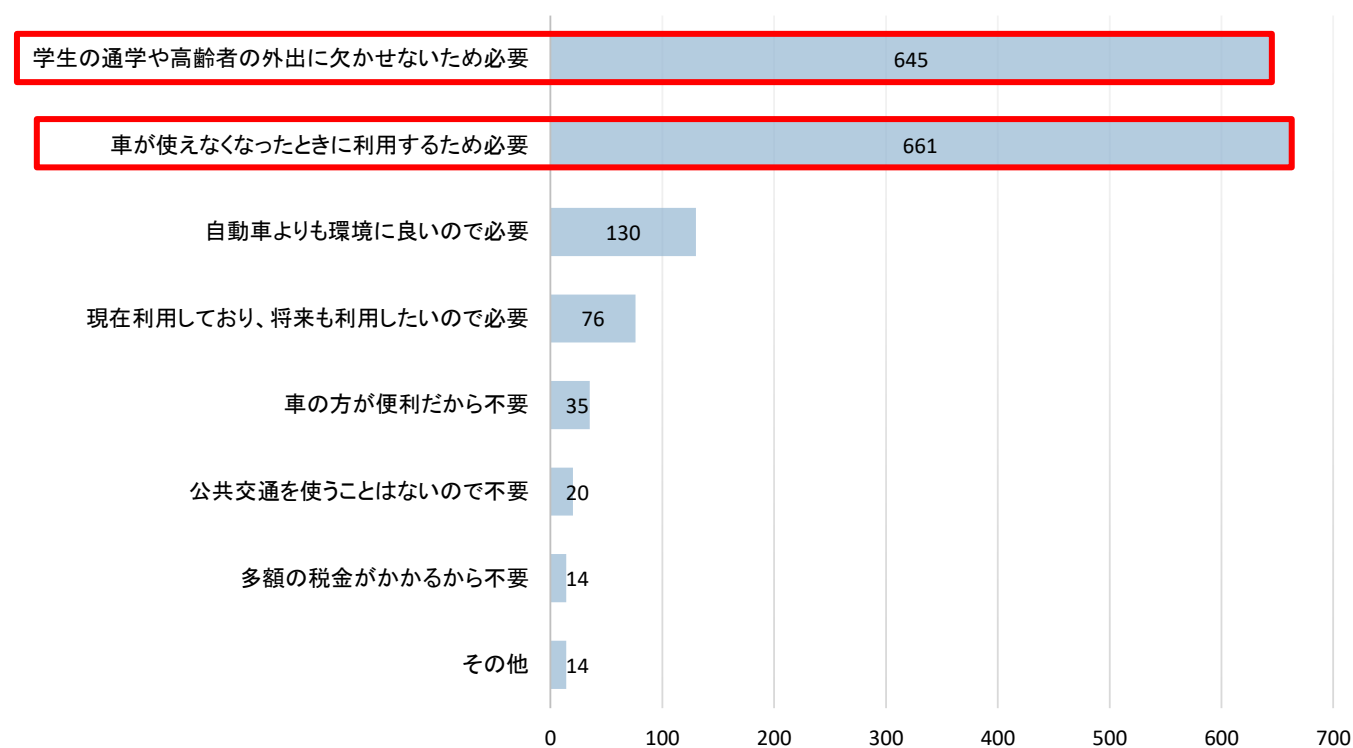


※満足度は、満足＝5、やや満足＝4、普通＝3、やや不満＝2、不満＝1とした五段階評定法による平均値

④ 将来の公共交通のあり方

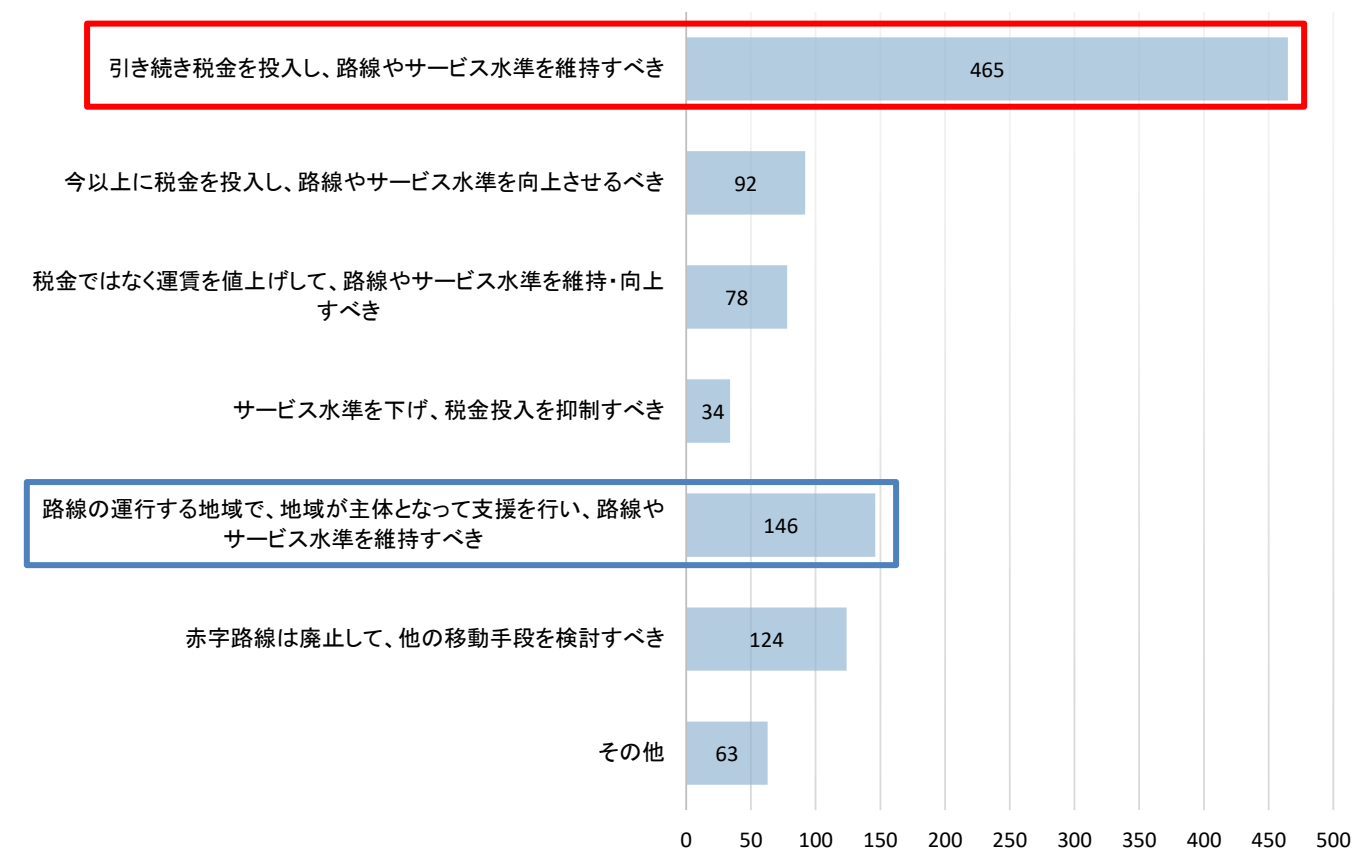
④－１ 公共交通の必要性

「車が使えなくなったときに利用するため必要」と「学生の通学や高齢者の外出に欠かせないため必要」が突出して多い。



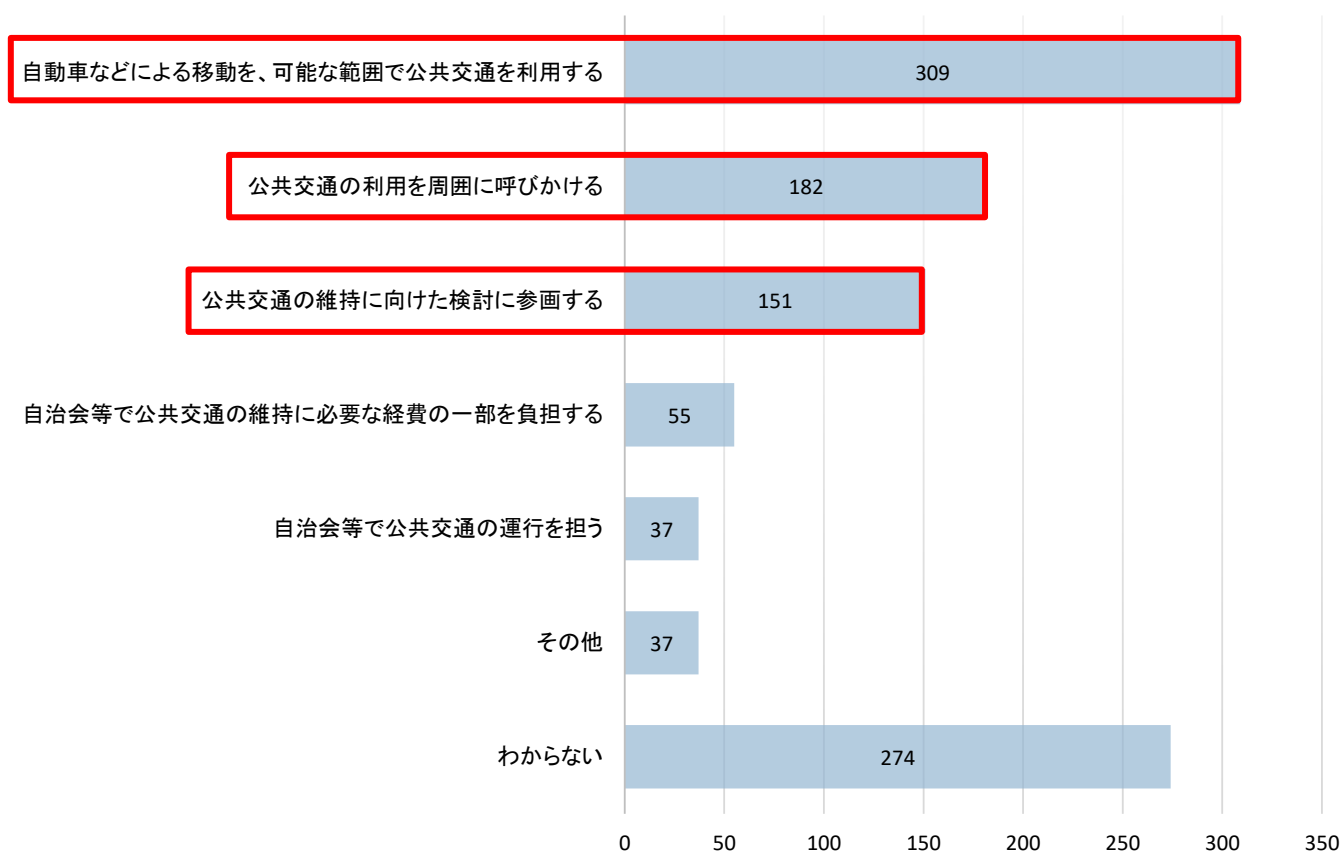
④－２ 公共交通のサービス維持のあり方

「引き続き税金を導入し、路線やサービス水準を維持すべき」が突出して多い一方、「路線の運行する地域で、地域が主体となって支援を行い、路線やサービス水準を維持すべき」への一定数の支持もみられる。



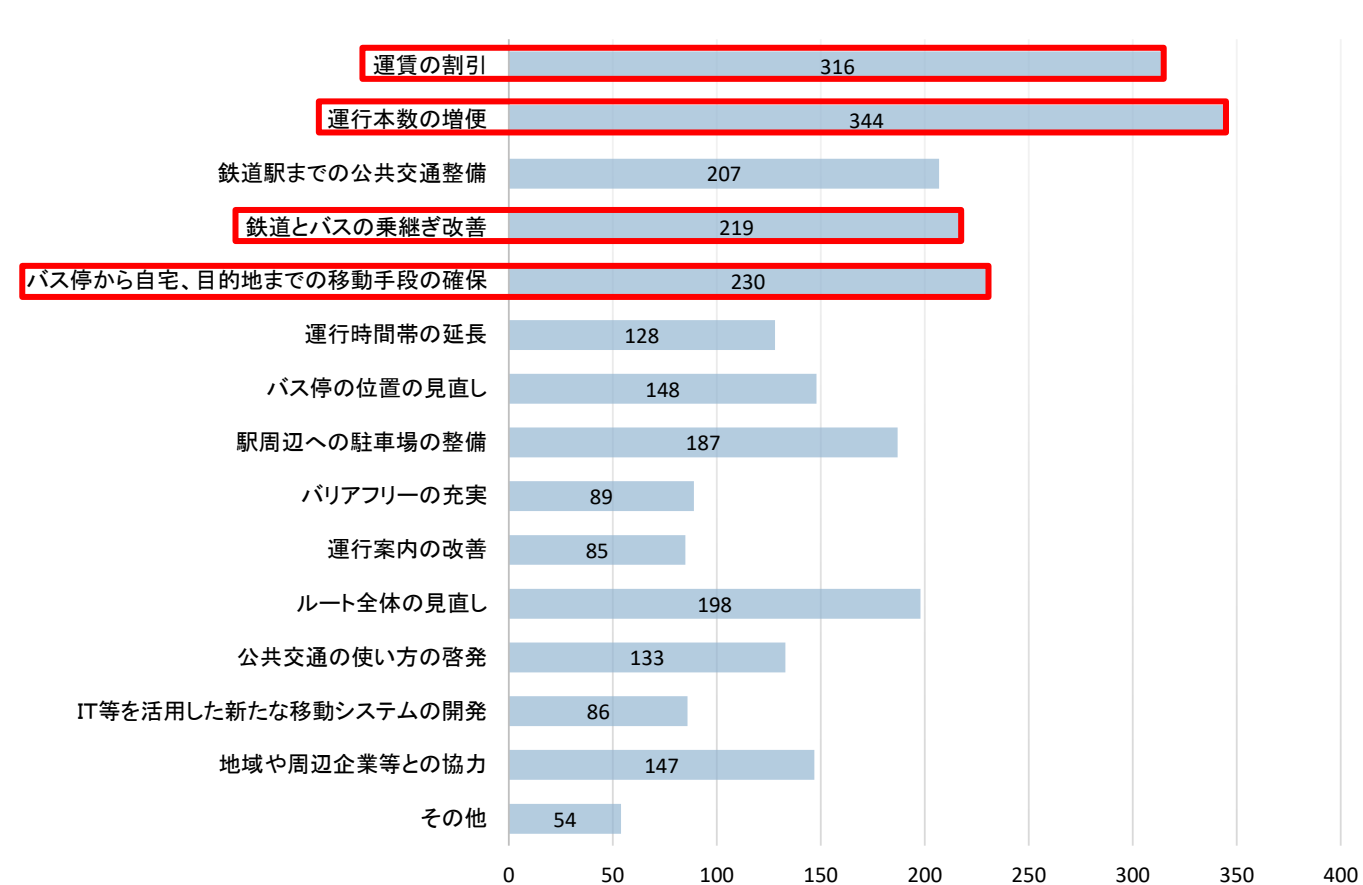
④－3 地域や個人による公共交通のサービス維持への取り組み

「自動車などによる移動を、可能な範囲で公共交通を利用する」が最も多く、「公共交通の利用を周囲に呼びかける」、「公共交通の維持に向けた検討に参画する」が続く。



④－4 過度に車に依存せず、公共交通を利用する生活に必要なこと

「運行本数の増便」が最も多く、「運賃の割引」、「バス停から自宅、目的地までの移動手段の確保」、「鉄道とバスの乗継ぎ改善」等と続く。



2. 北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅の利用に関するアンケート調査

(1) 調査の概要

- ① 調査目的
- ・北陸新幹線開業直後からの、北陸新幹線利用者の交通行動や黒部宇奈月温泉駅の利用環境に対する評価の変化を把握すること
- ② 調査対象
- ・黒部宇奈月温泉駅乗降客
(平日、休日とも概ね3,000人の乗降客を想定(乗車客、降車客それぞれ概ね1,500人))
(概ね5割の配布率を目標)
- ③ 調査方法
- ・黒部宇奈月温泉駅改札前での手渡しによる調査票の配布
・郵送による回収(留置方式)
- ④ 調査日程
- ・調査票の配布: 2019年9月19日(木)【平日】、2019年9月22日(日)【休日】
・調査票の回収: 2019年10月3日(木)
- ⑤ 配布・回収状況
- ・本調査では、2,206通の配布に対し606通の回答があり、回収率は、24.4%

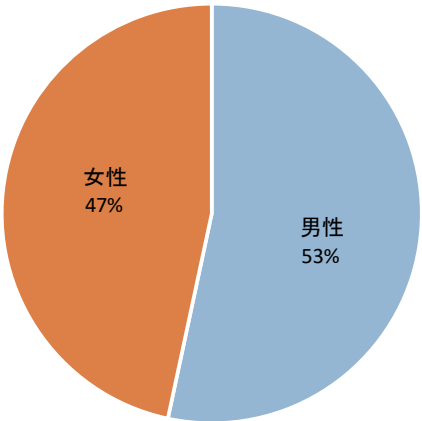
	9月19日(木) 【平日】	9月22日(日) 【休日】	計
配布数	898通 (乗車 493通) (降車 405通)	1,419通 (乗車 898通) (降車 884通)	2,206通 (乗車 1,292通) (降車 914通)
回収数	264通	342通	606通
回収率	29.7%	19.1%	24.4%

※ 以下では、有効回答数を基に集計

(2) 調査結果(概要)

- ① 属性
- 性別

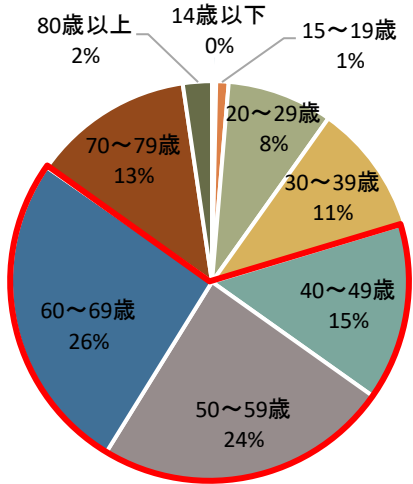
回答者の約53%が「男性」、約47%が「女性」となっている。



	回答数	比率
男性	318	53.4%
女性	278	46.6%
合計	596	100.0%

- 年齢

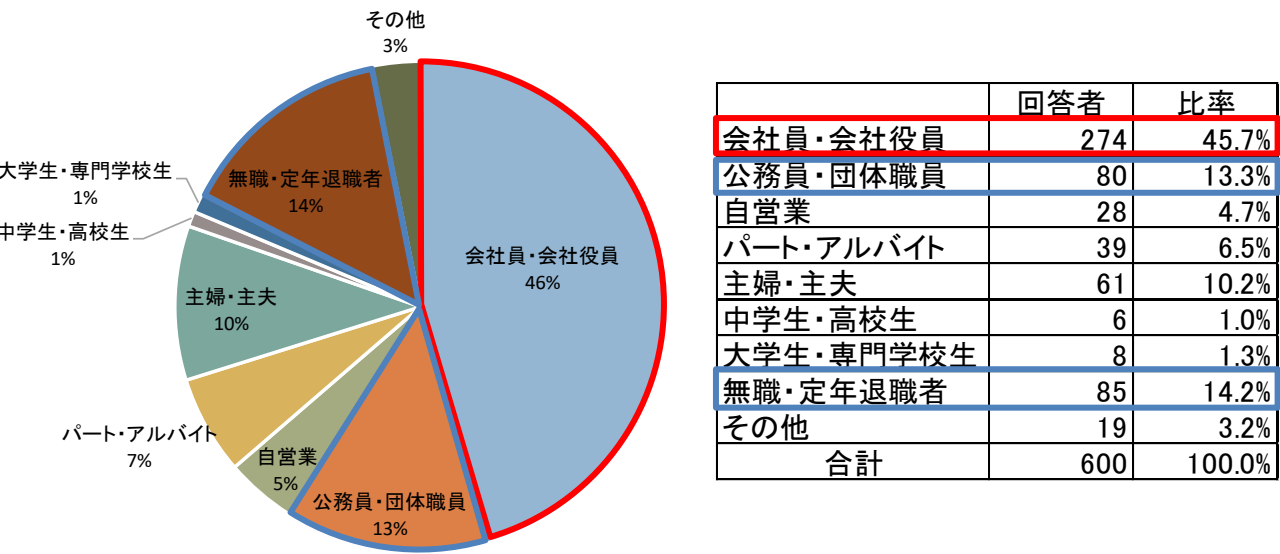
「60歳代」が約25.8%と最も多く、次いで「50歳代」、「40歳代」等と続く。40歳代から60歳代で全体で約64.3%を占める。



	回答数	比率
14歳以下	2	0.3%
15～19歳	6	1.0%
20～29歳	51	8.5%
30～39歳	63	10.5%
40～49歳	87	14.5%
50～59歳	144	24.0%
60～69歳	155	25.8%
70～79歳	78	13.0%
80歳以上	14	2.3%
合計	600	100.0%

○ 職業

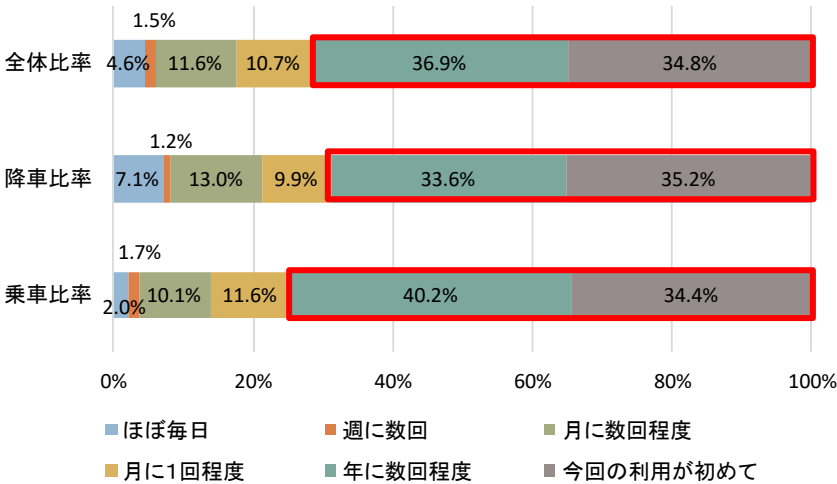
「会社員・会社役員」が約46%と最も多く、「無職・定年退職者」、「公務員・団体職員」等と続く。



○ 北陸新幹線開業以降、「黒部宇奈月温泉駅」で乗車/降車する頻度

本調査では、乗車利用者には「黒部宇奈月温泉駅で乗車する頻度」、降車利用者には「黒部宇奈月温泉駅で降車する頻度」を調査した。

全体的に、「年に数回程度」や「今回の利用が初めて」の割合が大きく、乗降別の傾向に大きな違いはない。

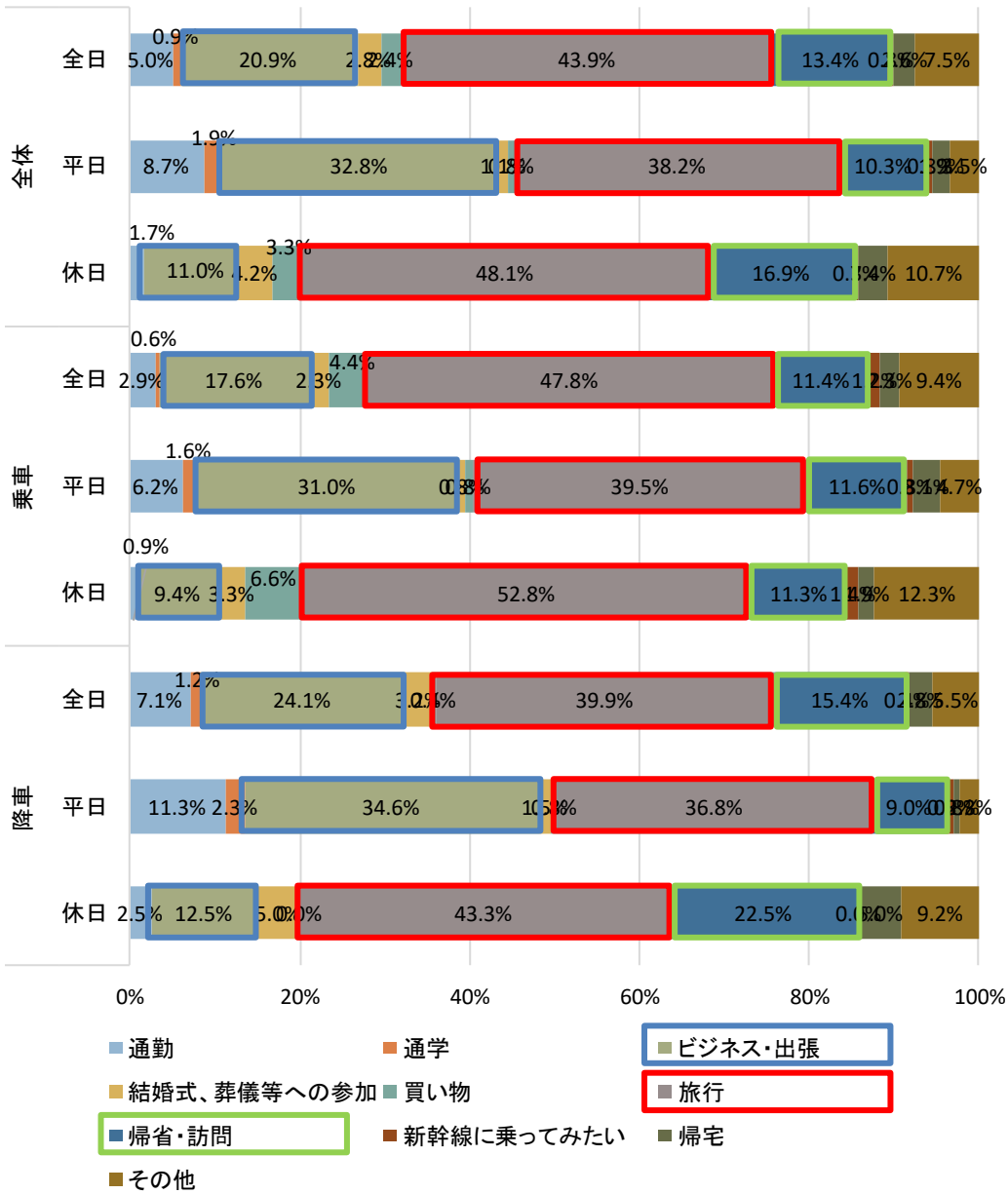


	乗車人数	降車人数	全体人数	乗車比率	降車比率	全体比率
ほぼ毎日	7	18	25	2.0%	7.1%	4.6%
週に数回	6	3	9	1.7%	1.2%	1.5%
月に数回程度	35	33	68	10.1%	13.0%	11.6%
月に1回程度	40	25	65	11.6%	9.9%	10.7%
年に数回程度	139	85	224	40.2%	33.6%	36.9%
今回の利用が初めて	119	89	208	34.4%	35.2%	34.8%
合計	346	253	599	100.0%	100.0%	100.0%

② 本日の北陸新幹線利用を含む移動の行程

②-1 本日の北陸新幹線の利用目的

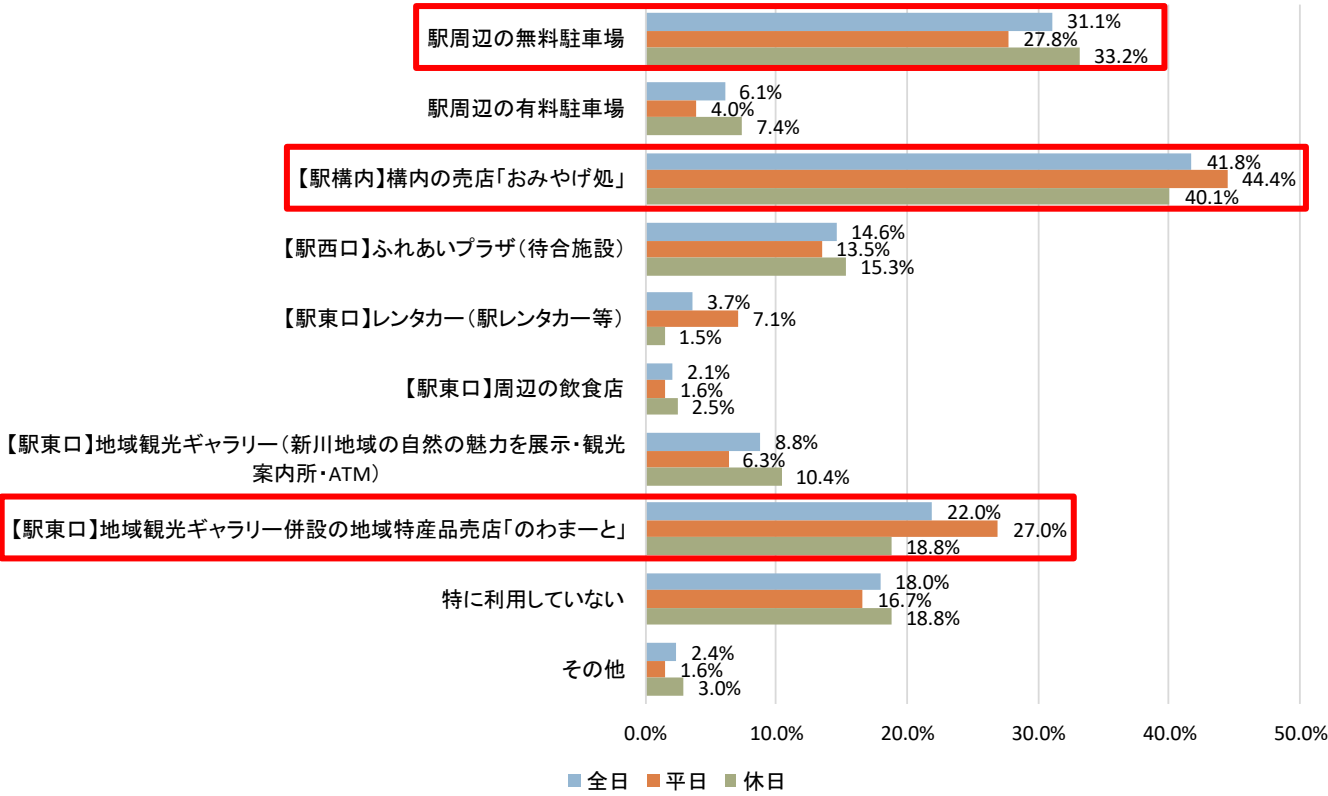
平日及び休日ともに、「旅行」が最も多く、「ビジネス・出張」や「帰省・訪問」の割合が高い。また、休日に比べ平日では、乗降ともに「ビジネス・出張」が「帰省・訪問」の割合を上回る。



②-2 利用した駅周辺施設

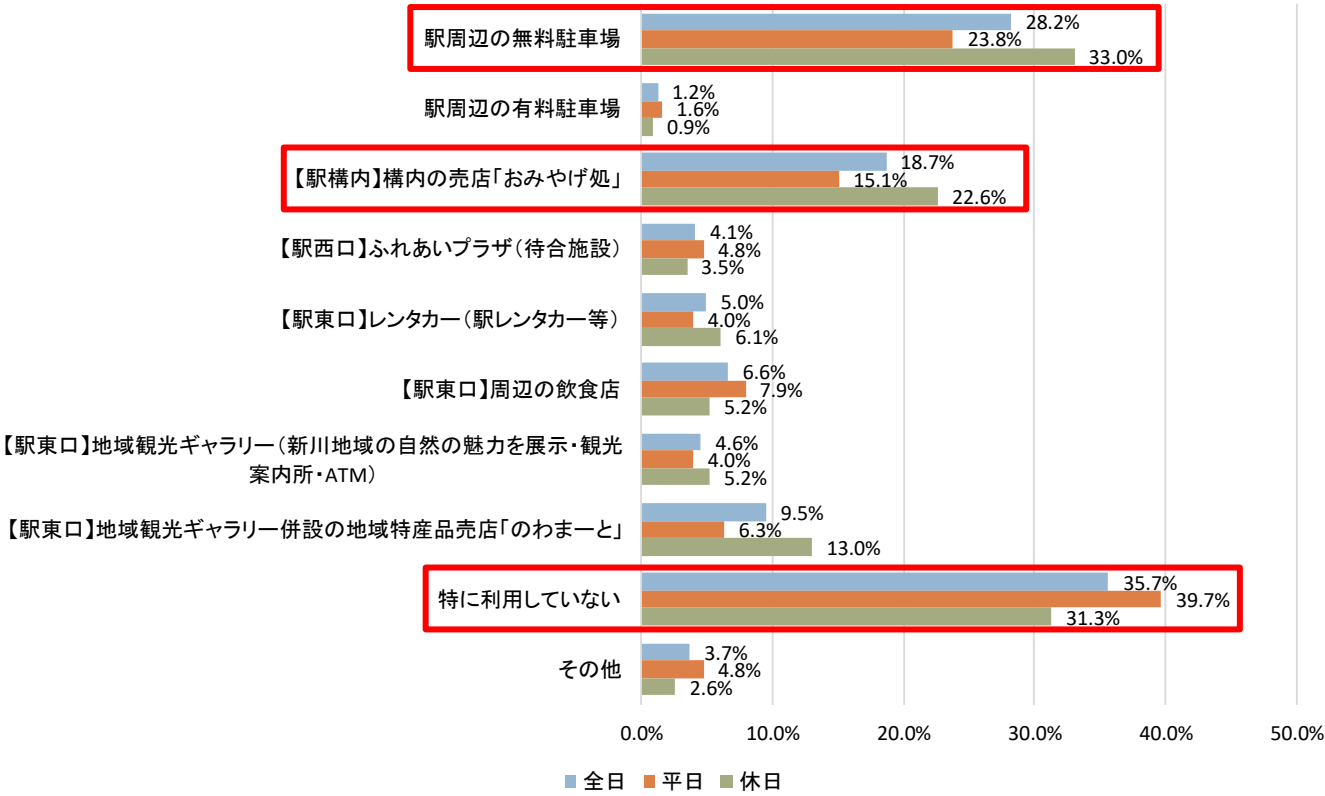
○「黒部宇奈月温泉駅」で北陸新幹線に乗車する前に利用した駅周辺施設（乗車のみ）

平日及び休日ともに、「【駅構内】構内の売店「おみやげ処」」が最も多く全体の約4割を占めるほか、「駅周辺の無料駐車場」、「【駅東口】地域観光ギャラリー併設の地域特産品売店「のわまーと」」等が続く。



○「黒部宇奈月温泉駅」で降車してから駅を立つまでに利用した駅周辺施設（降車のみ）

平日及び休日ともに「特に利用していない」が最も多い中で、「駅周辺の無料駐車場」や「【駅構内】構内の売店「おみやげ処」」等が続く。

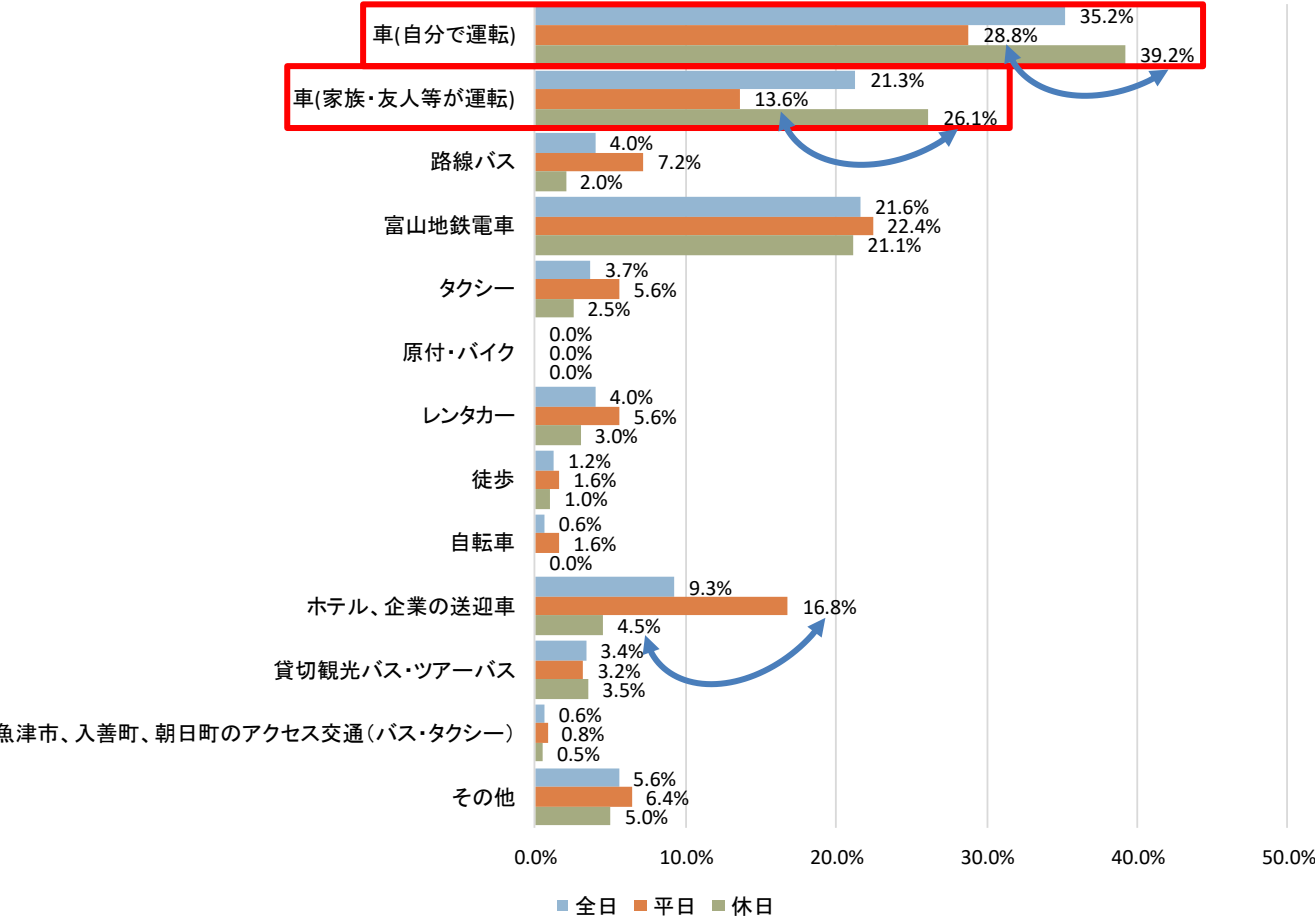


②-3 黒部宇奈月温泉を起点とする移動手段

○ 出発地から「黒部宇奈月温泉駅」までの主な移動手段（乗車のみ）

平日及び休日ともに、「車（自分で運転）」が最も多く、「車（家族・友人等が運転）」や「富山地鉄電車」の割合も高い。

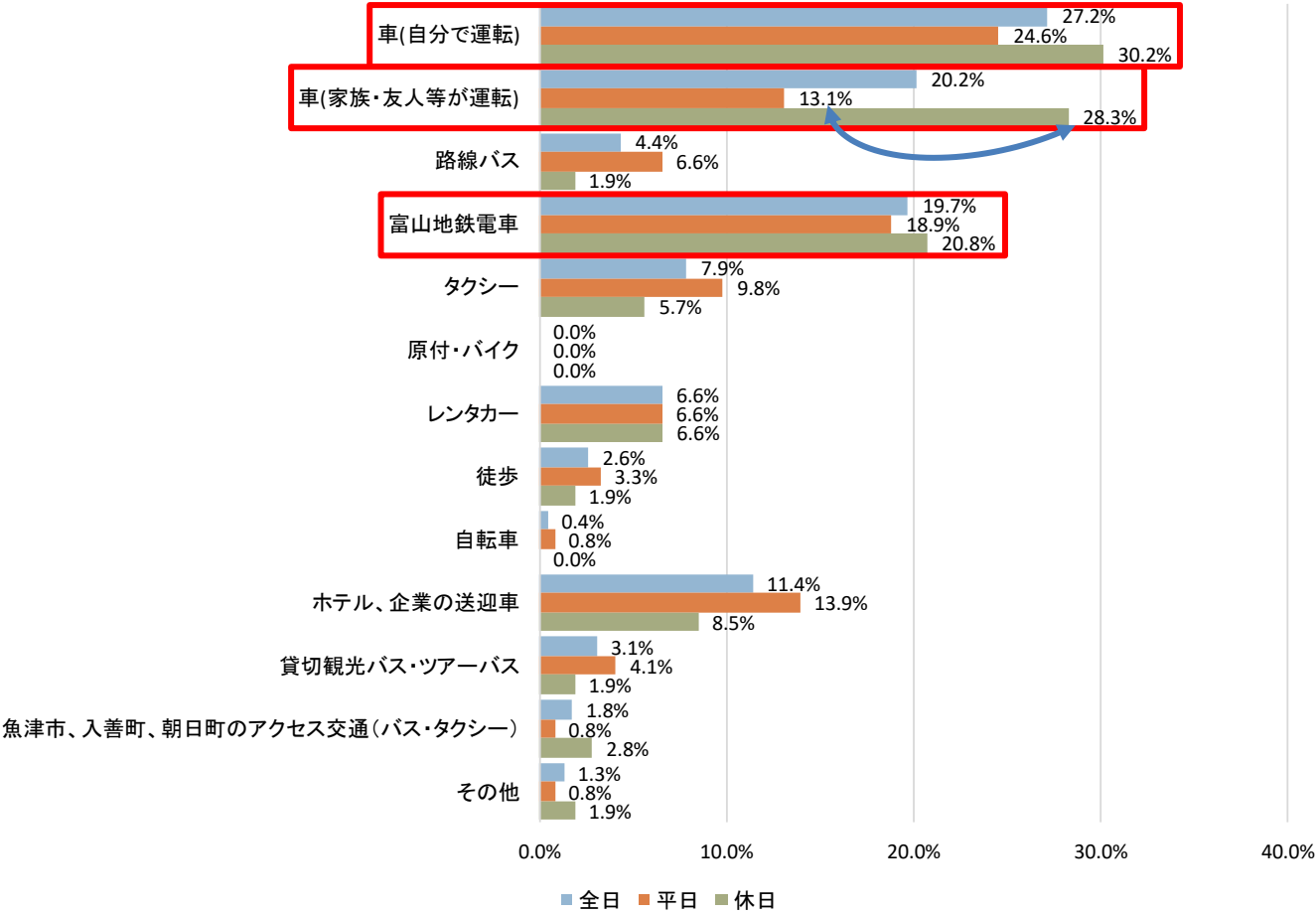
平日に比べ休日で「車（自分で運転）」や「車（家族・友人等が運転）」の割合が高い。
また、休日に比べ平日で「ホテル、企業の送迎車」の割合が高い。



○ 「黒部宇奈月温泉駅」から目的地までの主な移動手段（降車のみ）

平日及び休日ともに、「車（自分で運転）」が最も多く、「車（家族・友人等が運転）」や「富山地鉄電車」の割合も高い。

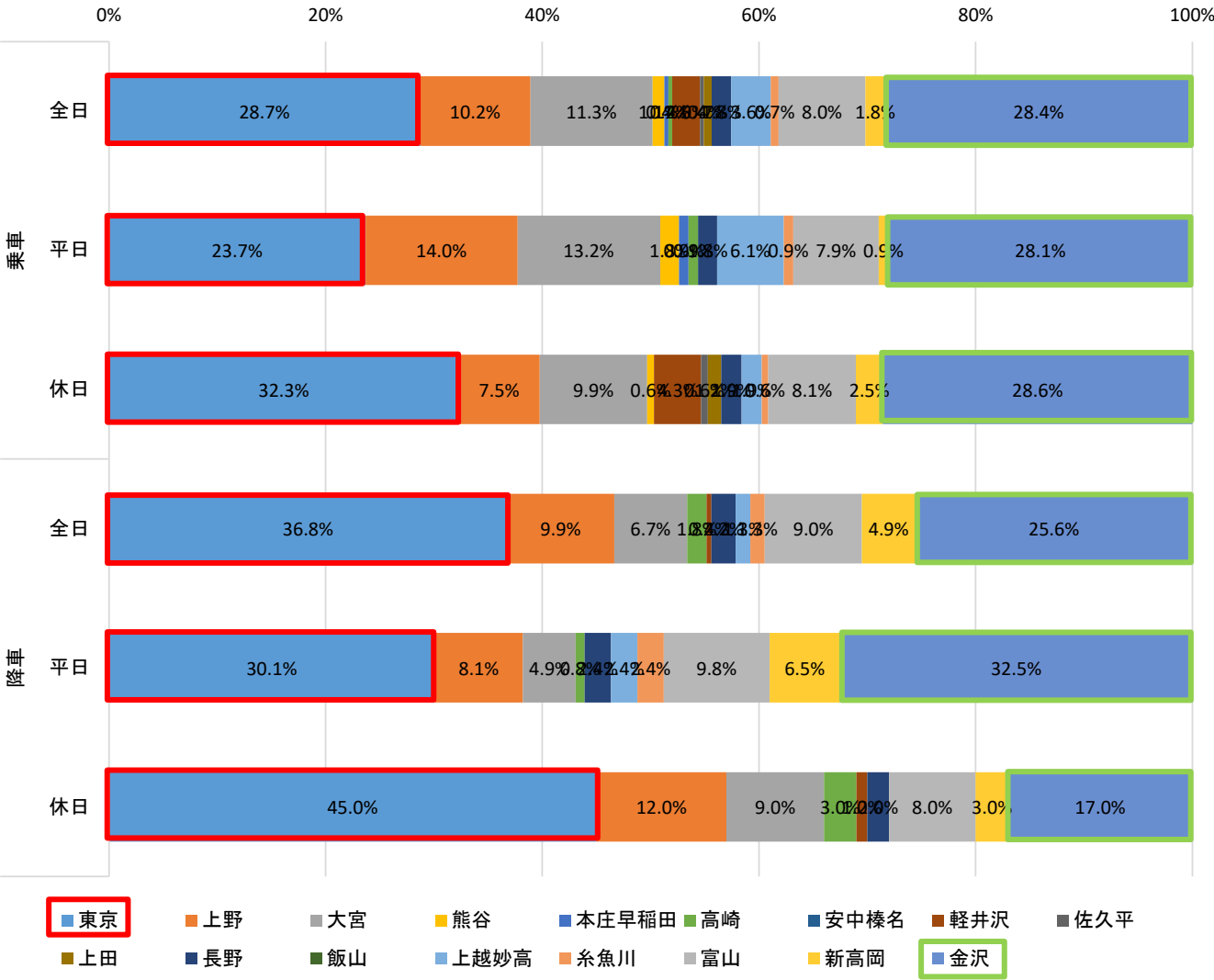
平日に比べ休日で「車（家族・友人等が運転）」の割合が高い。



②-4 乗車・降車した駅

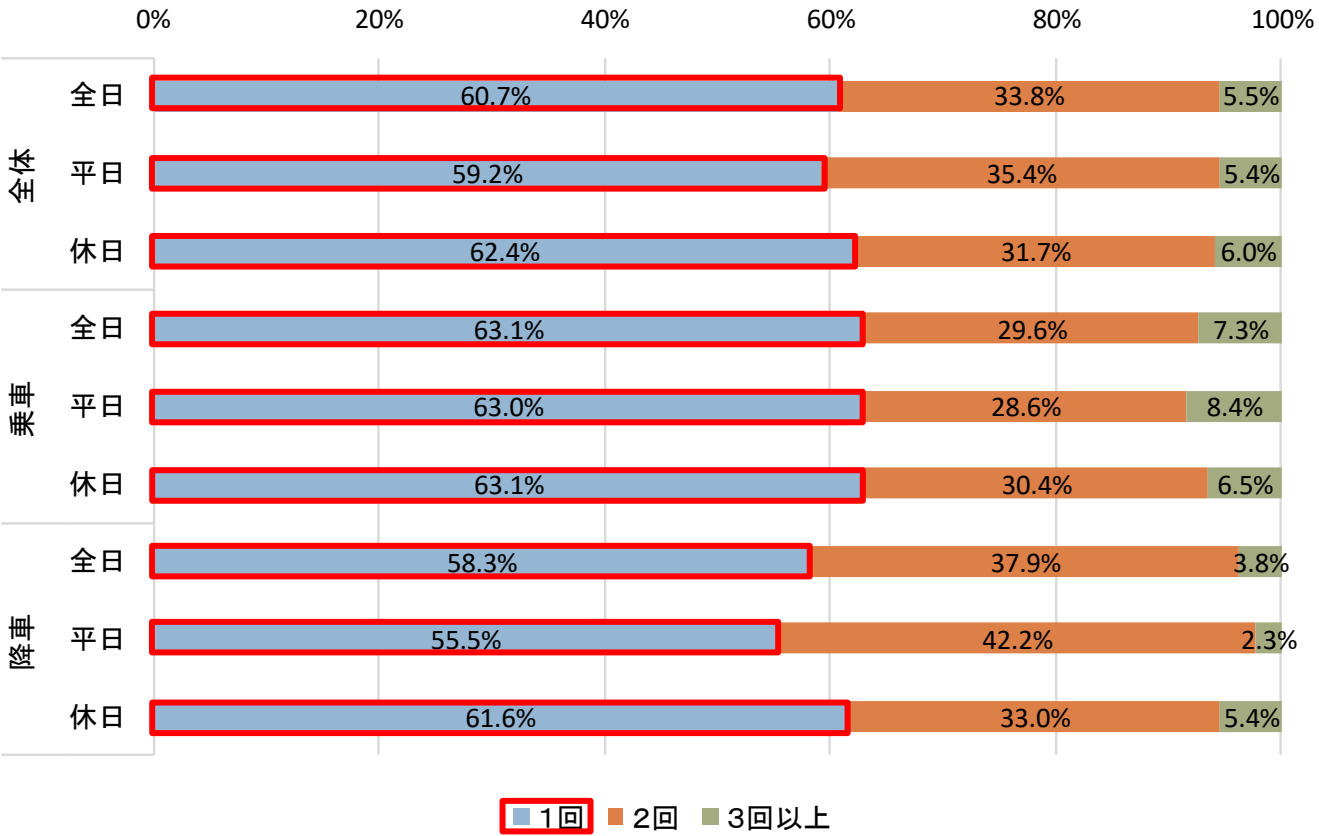
本調査では、黒部宇奈月温泉駅での乗車客には「降車する駅」、黒部宇奈月温泉駅での降車客には「乗車した駅」の設問を設けた。

黒部宇奈月温泉駅での乗車客では、平日・休日ともに、「東京駅」や「金沢駅」の割合が高い。また、黒部宇奈月温泉駅での降車客の傾向も、乗車客と同様である。



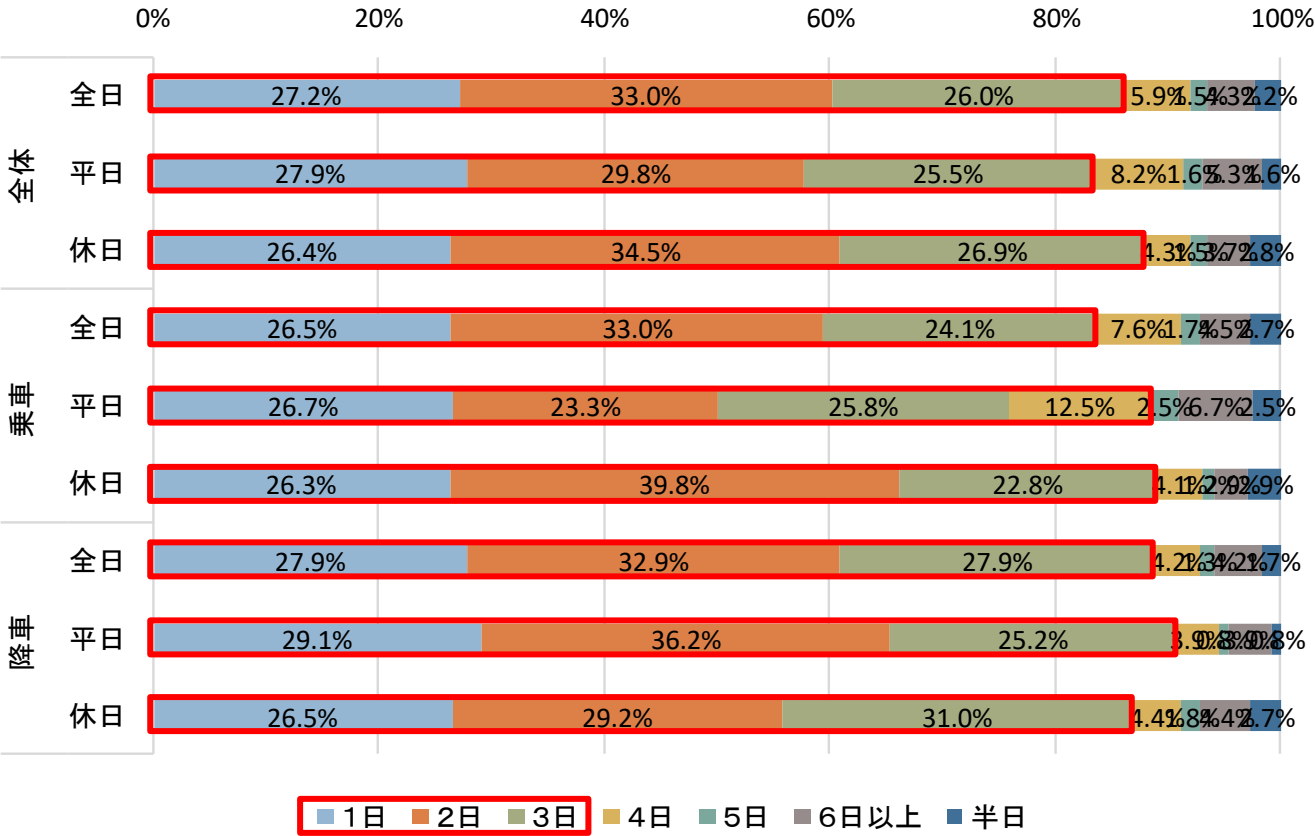
②-5 本日の北陸新幹線利用回数

平日及び休日とも、また乗降ともに、「1回」の回答が最も多く、全体の約6割を占める。



②-7 本日を含む行程にかかる日数

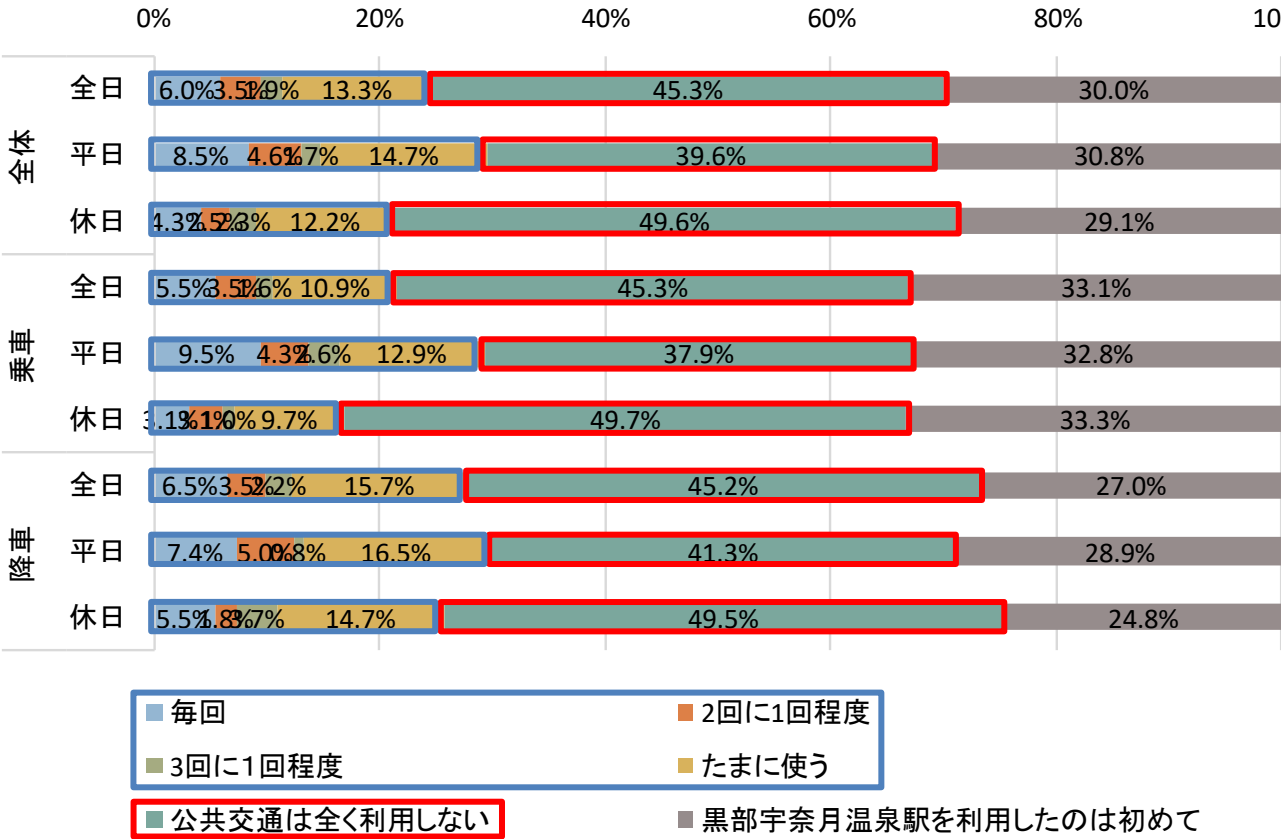
平日及び休日とも、また乗降ともに、概ね9割が「3日以内」の行程であった。
乗車客では、平日で「1日」の割合が最も高い一方、休日で「2日」が最も高いことが特徴となっている。
また、降車客では、平日で「2日」の割合が最も高い一方、休日で「3日」が最も高いことが特徴となっている。



③ 普段の「黒部宇奈月温泉駅」からの移動状況

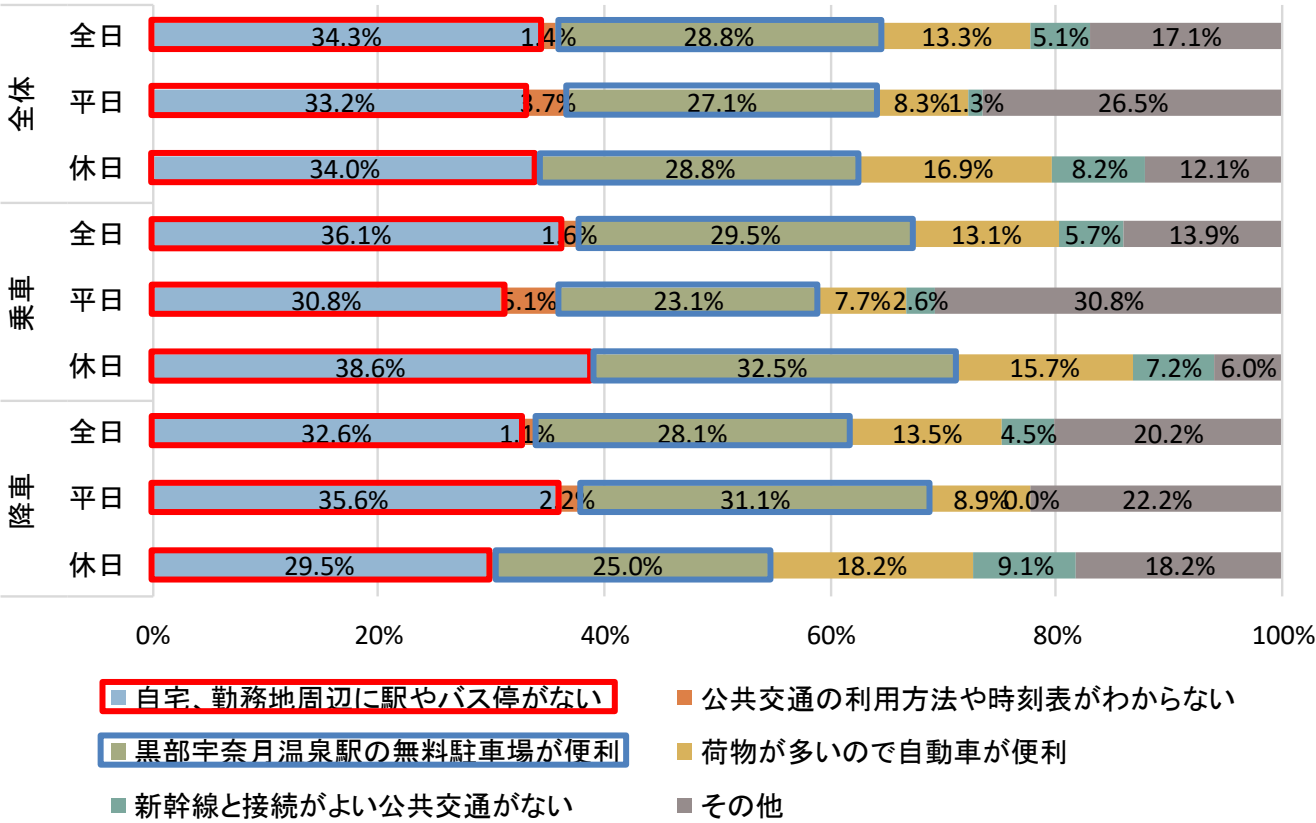
③-1 「黒部宇奈月温泉駅」を起点とするアクセスの際に公共交通を利用する頻度

平日及び休日とも、また乗降ともに、「公共交通は全く利用しない」の割合が最も高く、それぞれ全体の4割から5割を占める。また、公共交通の利用頻度は、「毎回」から「たまに使う」を合わせ、全体の概ね2割前後であった。



③-2 普段、「黒部宇奈月温泉駅」からの移動に公共交通を利用しない理由

平日及び休日とも、また乗降ともに、「自宅、勤務地周辺に駅やバス停がない」の割合が最も高く、「黒部宇奈月温泉駅の無料駐車場が便利」等と続く。

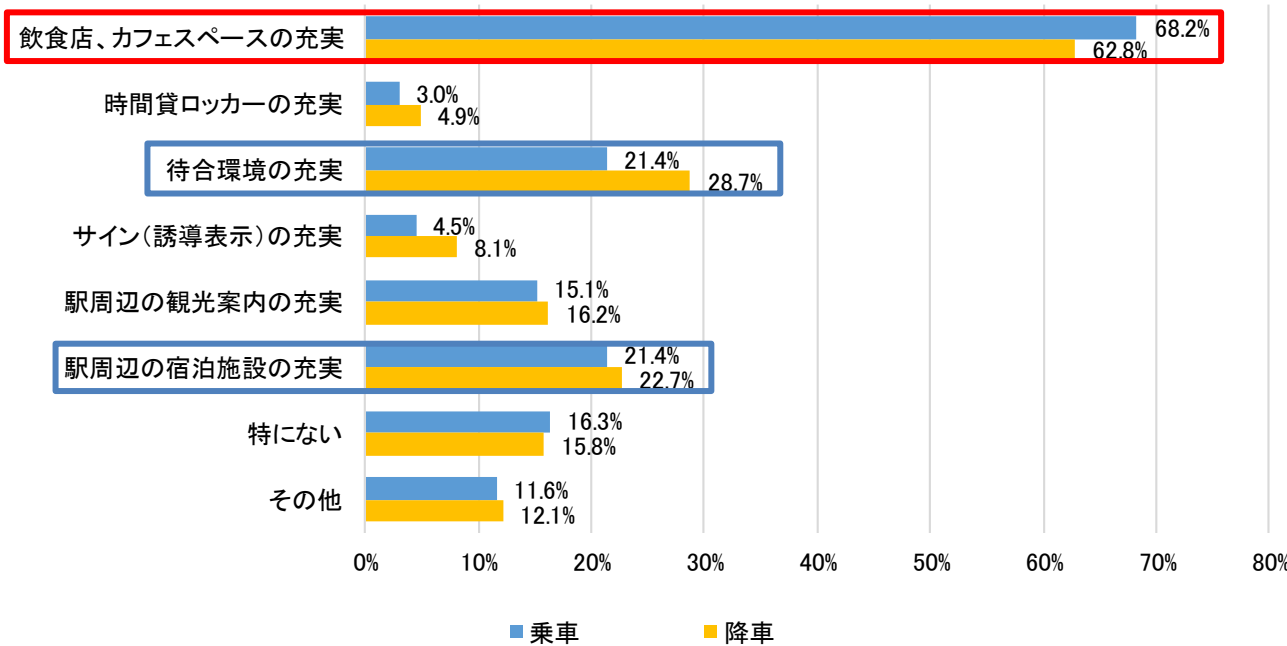


④ 「黒部宇奈月温泉駅」の利用環境に対する評価

④-1 「黒部宇奈月温泉駅」の利便性を向上させるために必要なこと

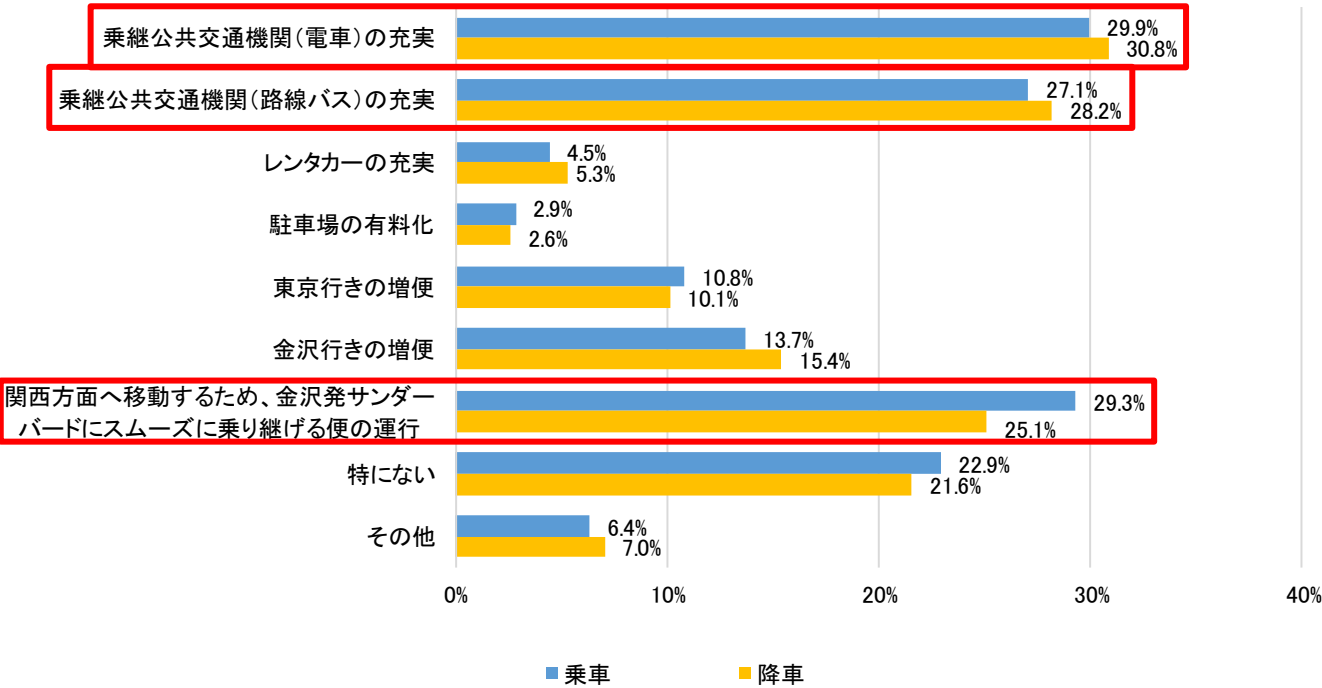
○ 駅施設の利用環境

乗降ともに、「飲食、カフェスペースの充実」の割合が最も高く概ね6割から7割を占める。また、「待合環境の充実」や「駅周辺の宿泊施設の充実」の割合も比較的高い。



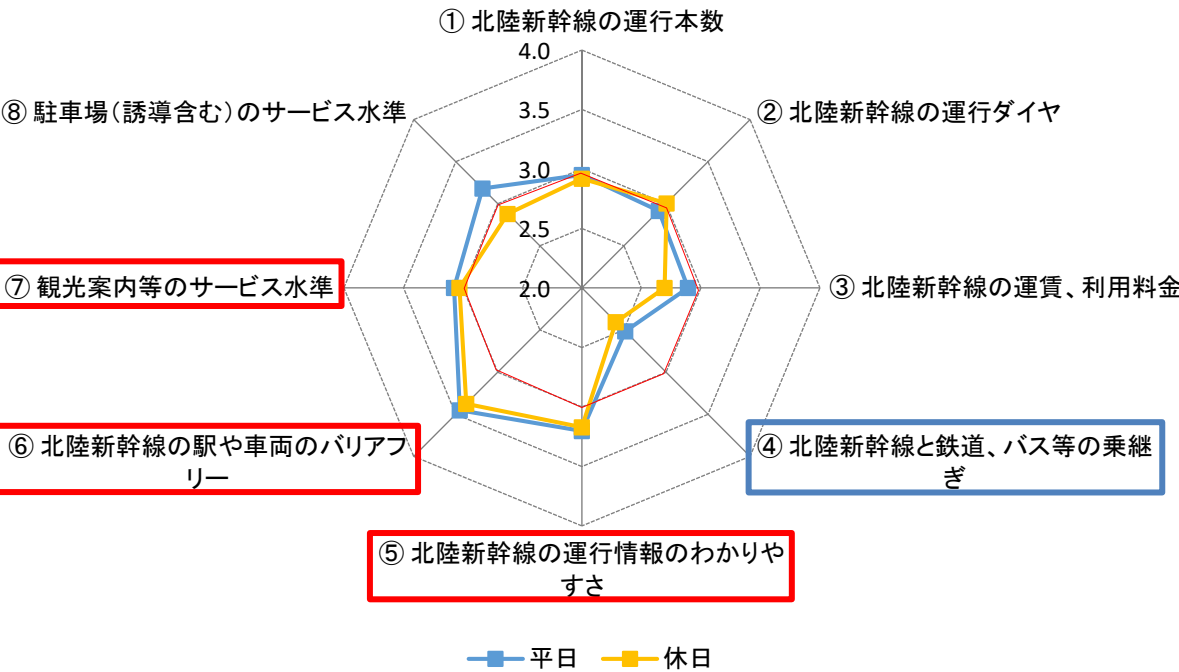
○ 公共交通等の利用環境

乗降ともに、「乗継公共交通機関（電車）の充実」や「乗継公共交通機関（路線バス）の充実」、「金沢発サンダーバードにスムーズに乗り継げる便の運行」といった「乗り継ぎ利便性の向上」を求める声が高い。



④-2 北陸新幹線に対する評価

平日及び休日ともに、満足度が中央値を超える項目は、「⑤北陸新幹線の運行情報のわかりやすさ」、「⑥北陸新幹線の駅や車両のバリアフリー」、「⑦観光案内等のサービス水準」の3項目である。特に、「⑥北陸新幹線の駅や車両のバリアフリー」に対する評価が高い。一方、「④北陸新幹線と鉄道、バス等との乗継ぎ」に対する評価が低い。



※満足度は、満足＝5、やや満足＝4、普通＝3、やや不満＝2、不満＝1とした五段階評定法による平均値

3. 路線バス利用者アンケート調査

(1) 調査の概要

⑤ 調査目的

- ・路線バス利用者の交通行動や路線バスの利用環境に対する評価を把握すること

⑥ 調査対象

- ・路線バス乗車客

⑦ 調査方法

- ・主要バス停での手渡しによる調査票の配布・郵送による回収（留置方式）

⑧ 調査票配布場所

- ・市民病院 バス停（新幹線市街地線、生地循環線、石田三日市線、池尻線、南北循環線）
- ・黒部駅前 バス停（新幹線市街地線、生地循環線、石田三日市線、池尻線）
- ・メルシー バス停（石田三日市線、池尻線、南北循環線）
- ・生地駅 バス停（新幹線生地線、生地循環線、南北循環線）

⑨ 調査日程

- ・調査票の発送：2019年9月26日（木）
- ・調査票の回収：2019年10月10日（木）

⑩ 配布・回収状況

- ・本調査では、218通の配布に対し74通の回答があり、回収率は、33.9%

配布数	218 通
回収数	74 通
回収率	33.9%

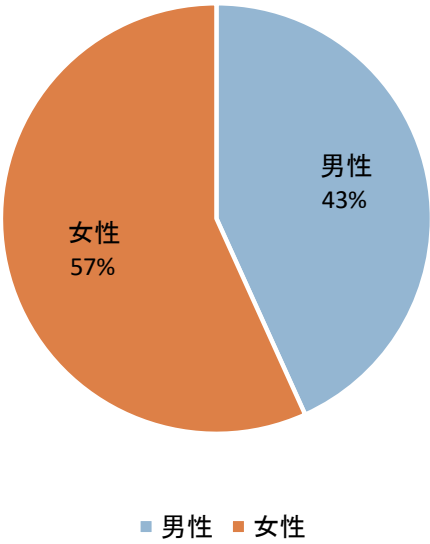
※ 以下では、有効回答数を基に集計

(2) 調査結果(概要)

① 属性

○ 性別

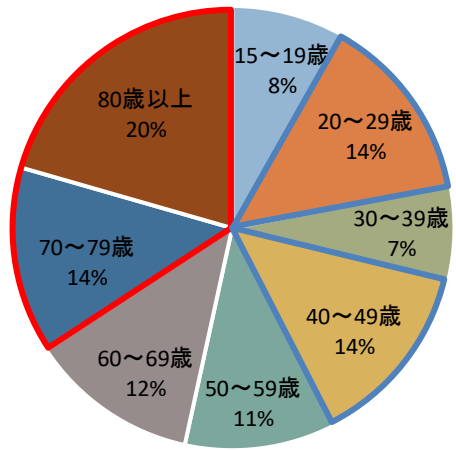
回答者の約43%が「男性」、約57%が「女性」となっている。



	回答数	比率
男性	32	43.2%
女性	42	56.8%
合計	74	100.0%

○ 年齢

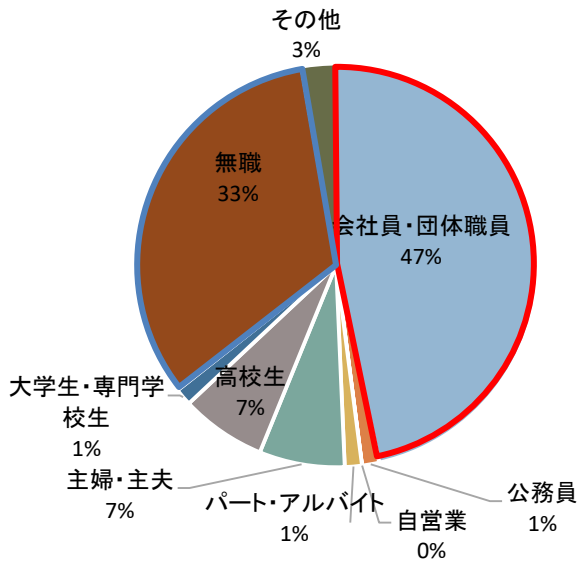
「80歳以上」が約20.5%と最も多く、次いで「70歳代」、「20歳代」、「40歳代」が多い。



	回答数	比率
15～19歳	6	8.2%
20～29歳	10	13.7%
30～39歳	5	6.8%
40～49歳	10	13.7%
50～59歳	8	11.0%
60～69歳	9	12.3%
70～79歳	10	13.7%
80歳以上	15	20.5%
合計	73	100.0%

○ 職業

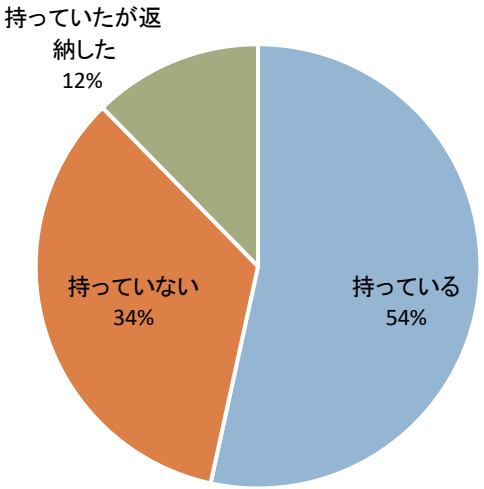
「会社員・団体職員」が46.6%と最も多く、「無職」等が続く。



	回答数	比率
会社員・団体職員	34	46.6%
公務員	1	1.4%
自営業	0	0.0%
パート・アルバイト	1	1.4%
主婦・主夫	5	6.8%
高校生	5	6.8%
大学生・専門学校生	1	1.4%
無職	24	32.9%
その他	2	2.7%
合計	73	100.0%

○ 運転免許の所有状況

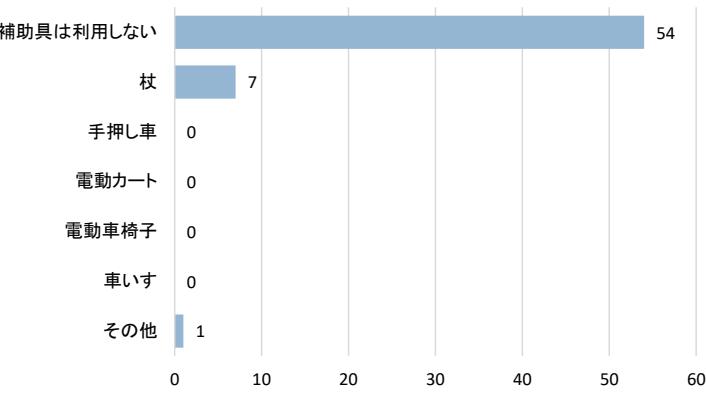
運転免許所有者が過半数を占めている。なお、免許返納者は12.3%となっている。



	回答数	比率
持っている	39	53.4%
持っていない	25	34.2%
持っていたが返納した	9	12.3%
合計	73	100.0%

○ 外出時の補助具利用状況

補助器具を利用しない回答者が大多数を占める。

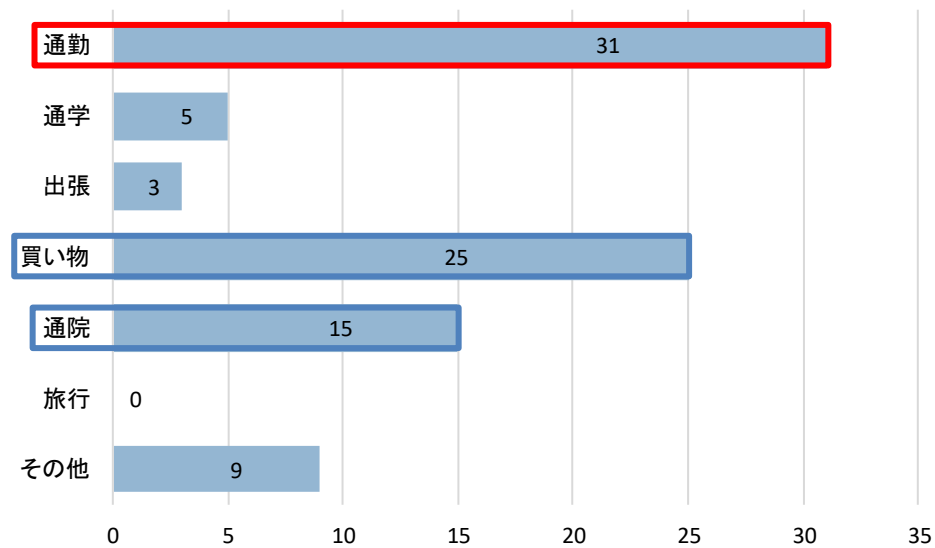


	回答数	比率
補助具は利用しない	54	87.1%
杖	7	11.3%
手押し車	0	0.0%
電動カート	0	0.0%
電動車椅子	0	0.0%
車いす	0	0.0%
その他	1	1.6%
合計	62	100.0%

② 路線バスの利用状況

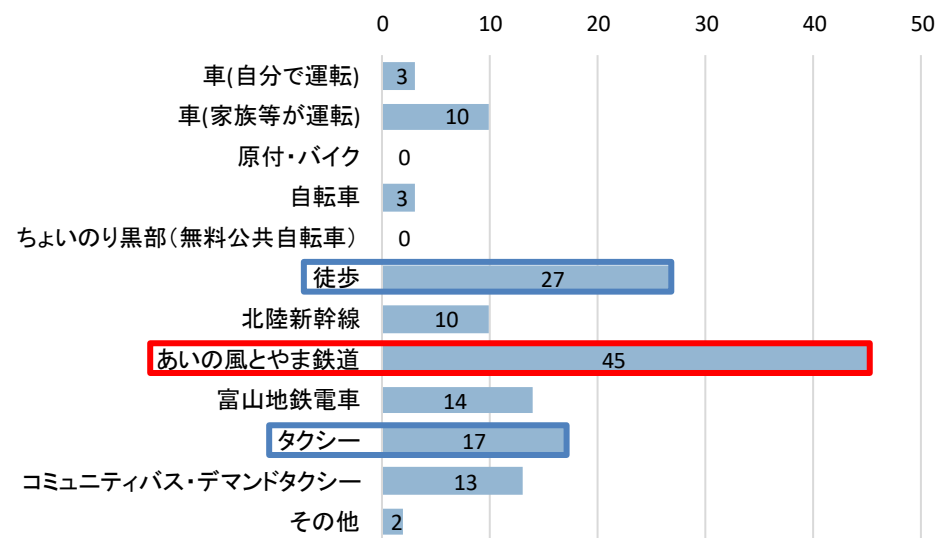
②-1 利用目的

「通勤」が最も多く、「買い物」、「通院」等が続く。



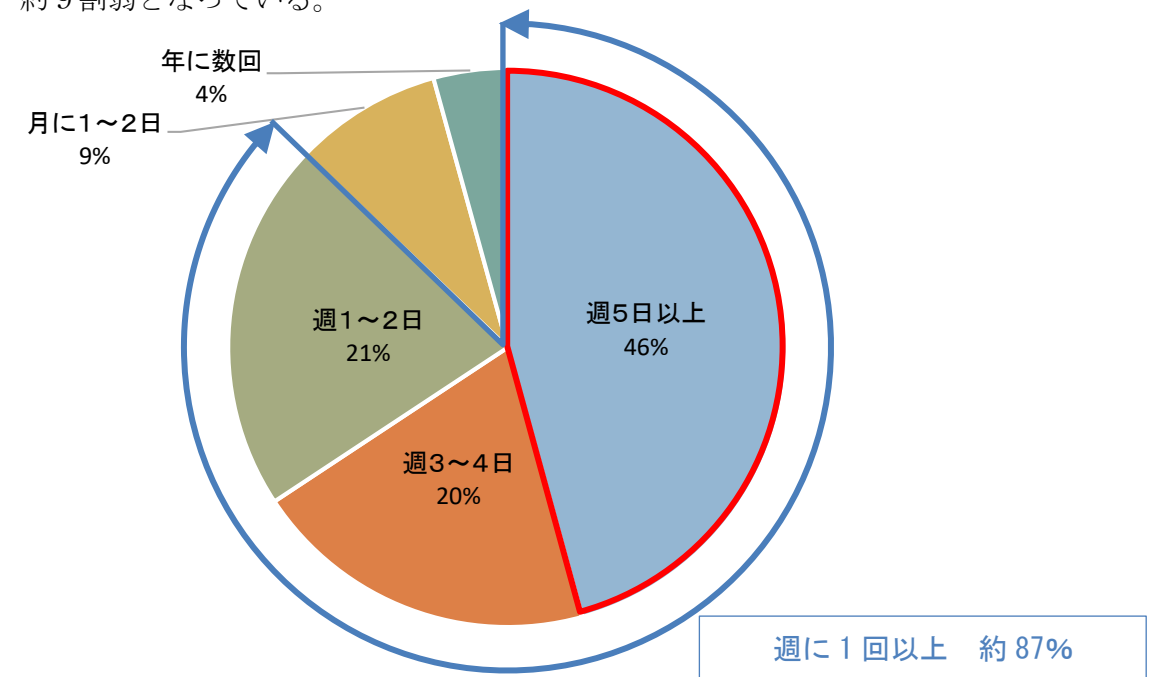
②-2 路線バス以外で利用した交通手段

「あいの風とやま鉄道」が最も多く、「徒歩」や「タクシー」等が続く。



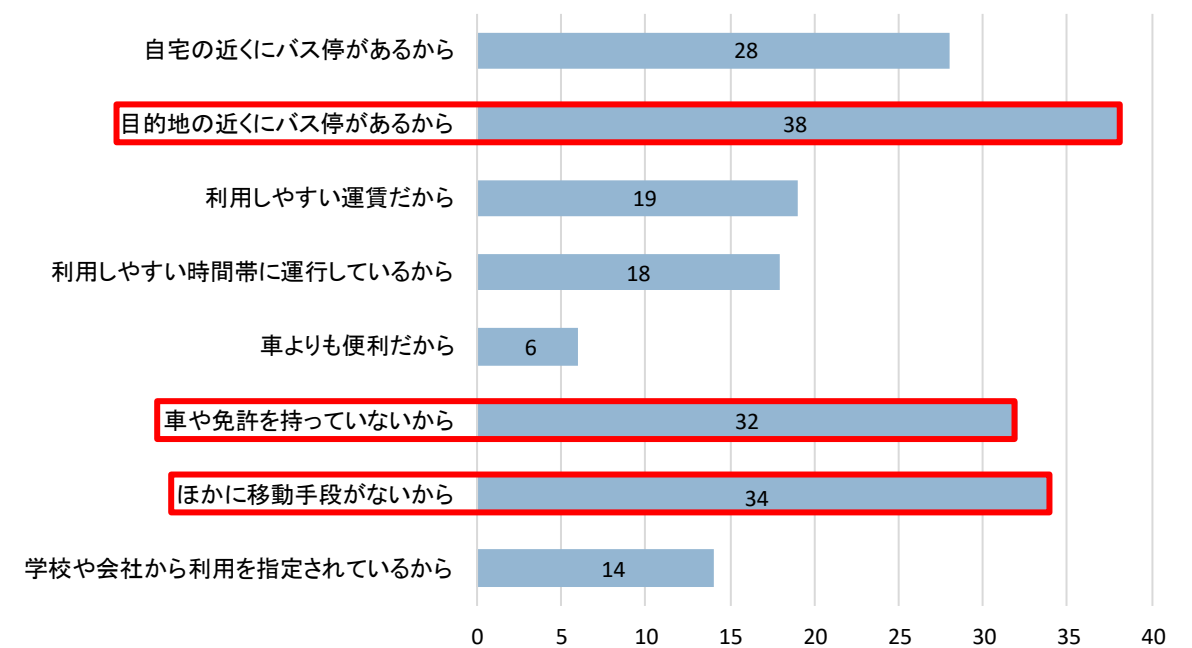
②-3 路線バスの利用頻度

全体では「週5日以上」利用する回答者が46%と最も多く、週に1回以上路線バスを利用する回答者は、約9割弱となっている。



②-4 路線バスを利用する理由

「目的地の近くにバス停があるから」が最も多く、「ほかに移動手段がないから」や「車や免許を持っていないから」、「自宅の近くにバス停があるから」等が続く。

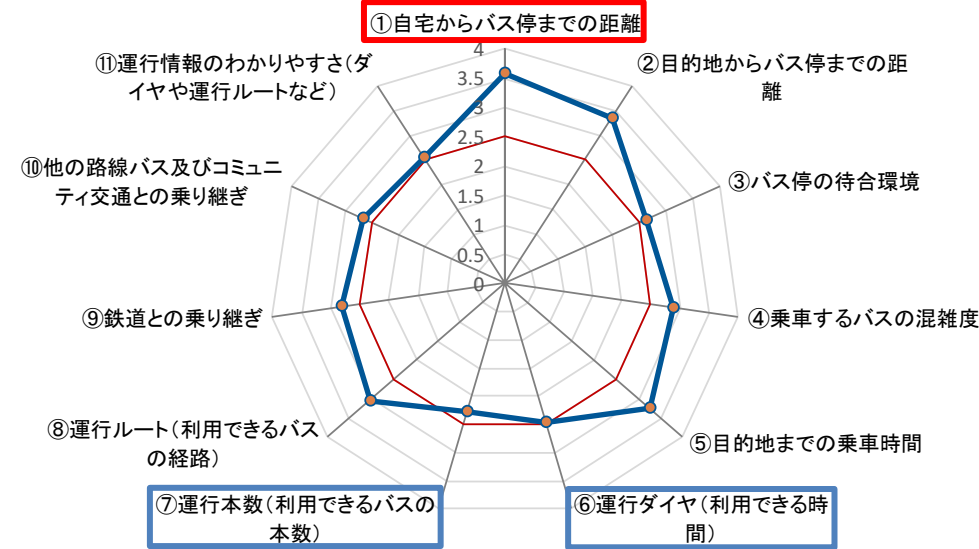


③ 黒部市内の路線バスに関する評価等

③-1 黒部市内の路線バスの満足度

○ 「行き」の利用環境

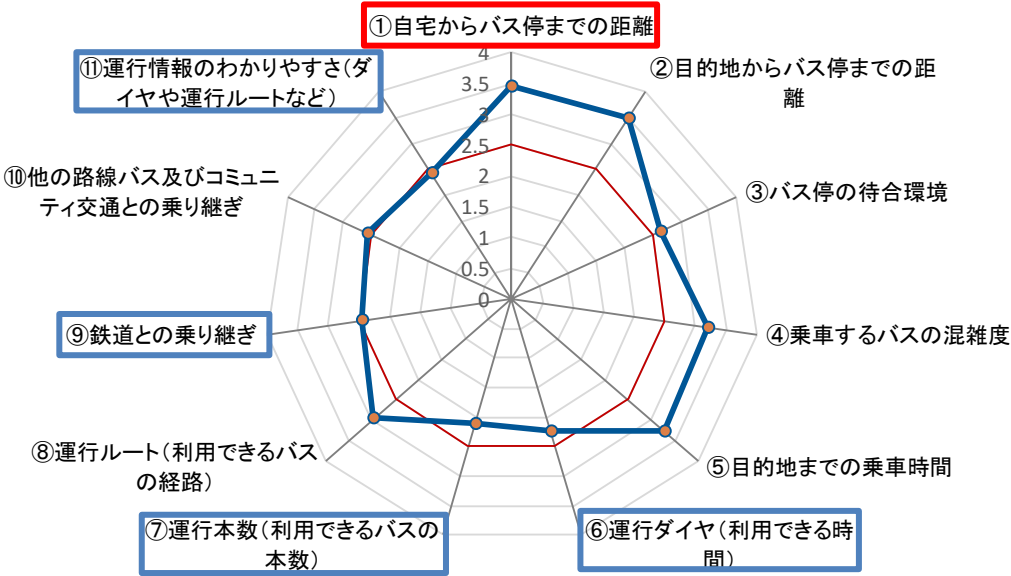
「⑥運行ダイヤ（利用できる時間）」及び「⑦運行本数（利用できるバスの本数）」除く項目で、満足度が中央値（2.5 ポイント）を超える。特に、「①自宅からバス停までの距離」の満足度が高い。



※満足度は、満足＝4、やや満足＝3、やや不満＝2、不満＝1とした四段階評定法による平均値

○ 「帰り」の利用環境

「行き」と同様、ほとんどの項目で満足度が中央値を超える。「帰り」では、「行き」で満足度が低かった「⑥運行ダイヤ（利用できる時間）」及び「⑦運行本数（利用できるバスの本数）」に加え、「⑪運行情報のわかりやすさ（ダイヤや運行ルートなど）」や「⑨鉄道との乗り継ぎ」の満足度が中央値を下回った。



③-2 路線バスをさらに利用するために必要な取組

「土日の運行」が最も多く、「平日夕方の時間帯（16～20 時台）の増便」や「鉄道や他路線バスとの乗り継ぎの改善」、「バスの待合環境の改善」等が続く。

